

## プロジェクト名

# 『エアークラシメイクアップの有用性の実証と方法論 の確立と人材育成プログラムの開発』

## アンケート調査報告書

文部科学省 専門人材の基盤的教育推進プログラム  
エアークラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発  
制作・著作 エアークラシメイクアップ プロジェクト委員会

アンケート製作・監修委員:

白岩 直明:東京ビジュアルアーツ

浅野 覚仁:東京ビジュアルアーツ

菅野 文子:東京ビジュアルアーツ

奥山 一成:山野美容専門学校

井上 和彦:早稲田美容専門学校

板橋 晃子:群馬県美容専門学校

北野 幸子:ハリウッド美容専門学校

川添 雅英:ECCアーティスト専門学校

浅野 みどり:名古屋大学医学部保健学科

浅野 輝幸:TEMPTU JAPAN

分析 浅野みどり、浅野輝幸

### アンケート調査の概要

アンケート調査の目的： 本調査の目的は、エアープラシメイクアップについてどの程度理解され、使用されているかを明確にし、今後のエアープラシメイクの導入における問題点を精査することにある。

アンケートは特別講義、外国人招へい公開講座を通じて行う。このため、アンケートの対象はすでに、何等かのかたちでメイクアップに携わっている方であるため、一般の調査とは異なり、メイクの基礎知識を有する方でもともと興味度の高い方を対象としている。

なお、アンケートは講義後に行った。

### アンケート調査結果の分析報告

#### セクション I : 属性分析: 対象の属性

受講者数 特別講義: 生徒及び教員 2260 名 (有効回答 1805 有効回答率 79.86%)

外国人招聘講座: 一般 210 名 (有効回答 142 有効回答率 67.62%)

総アンケート対象数 2470 名 (有効回答数 1947 有効回答率 78.83%)

	男	女	未回答	
性別	364	1556	27	
%	18.7	79.9	1.4	
	学生	社会人	未回答	
身分	1538	403	6	
%	79.0	20.7	0.3	
	大都市	地方都市	田舎	僻地
居住地特性	640	790	505	26
%	33.9	38.0	26.7	1.4

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	北海道	54	2.8	2.8	2.8
	東北	113	5.8	5.9	8.7
	関東	1109	57.0	57.6	66.2
	東海北陸	217	11.1	11.3	77.5
	信越	84	4.3	4.4	81.8
	関西	75	3.9	3.9	85.7
	中国	38	2.0	2.0	87.7
	四国	78	4.0	4.0	91.7
	九州	156	8.0	8.1	99.8
	海外	3	.2	.2	100.0
	合計	1927	99.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	20	1.0		
合計		1947	100.0		

- ① 性別では、男性 18.7%, 女性 79.9%と女性が男性の約 4 倍であった。
- ② 居住地域では関東圏が多いが、全国的から参加があった。また、海外からの参加もみられた。
- ③ 居住地の特性では約 34%が大都市, 38%が地方都市であった。居住地域や居住地特性は申込学校に依存し、バイアスが大きいので属性としては不相当と判断した。
- ④ 学生、社会人の種別では約 80%が一般学生, 残り 20%が社会人、社会人学生である。特別講義

の一般団体向けや教員などは社会人として分類される。また、学生であり社会人である方は社会人として分類した。

学生／社会人の別

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
学生	1538	79.0	79.2	79.2
社会人	403	20.7	20.8	100.0
合計	1941	99.7	100.0	
欠損値				
システム欠損値	6	.3		
合計	1947	100.0		

A: 学生における専攻科目(重複回答)

最近では、多くの分野に重複した学科が構成されているために重複回答とした。

A-2 専攻科目選択 1	メイクアップ(一般ビューティー向け)	695
A-2 専攻科目選択 2	メイクアップ(プロアーティスト)	257
A-2 専攻科目選択 3	特殊メイク	218
A-2 専攻科目選択 4	ボディアート	137
A-2 専攻科目選択 5	カバーメイク	57
A-2 専攻科目選択 6	死化粧	17
A-2 専攻科目選択 7	理美容(ヘアー)	1947
A-2 専攻科目選択 8	トータルビューティ	429
A-2 専攻科目選択 9	ブライダル	216
A-2 専攻科目選択 10	ネイル	447
A-2 専攻科目選択 11	エステ	333
A-2 専攻科目選択 12	美容福祉	83
A-2 専攻科目選択 13	コメディカル	1
A-2 専攻科目選択 14	講師	25
		4862

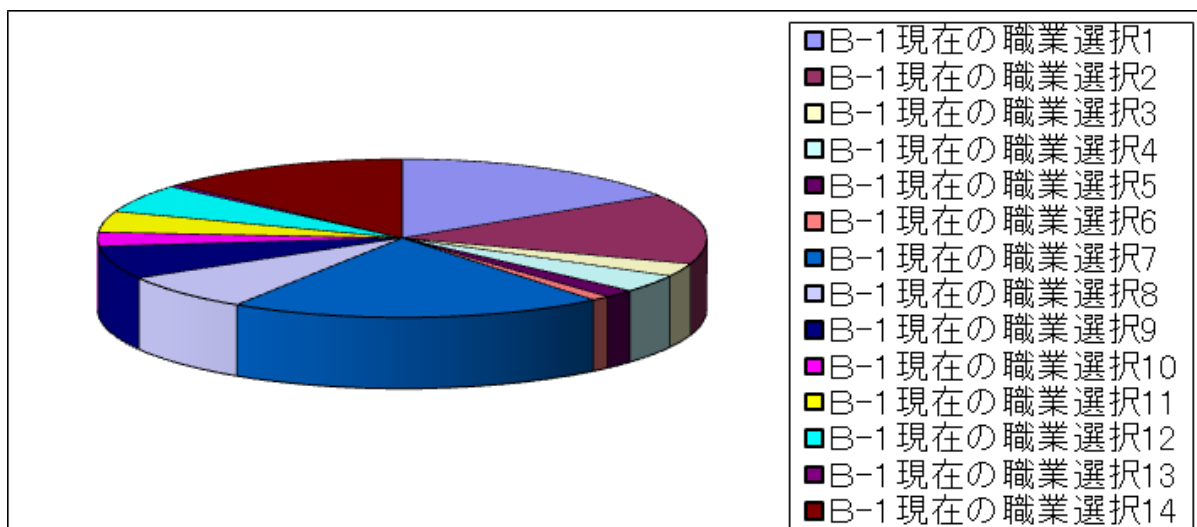
メイク関連は美容系の学校が多いために理美容系(すべてが美容系で理容系はない)が40%である。また、美容系は一般向けビューティーを含むので、メイクアップ(一般向け)は14%ほどある。その他の専攻は美容師免許を取得しない。学生における美容系、非美容系での分析はバイアスが大きと思われる。そのため、設問⑤「なりたい職業」によって美容系、非美容系にクラスター化して分析することとした。

学年、学校種別においてはほとんどが専門学校であり、データ属性としてはあまり意味がない。学生であり社会人であるかたは社会人として分類することとした。これは、特別講義においても、社会人学生と学生のモチベーションは異なり、社会人の意識に近いと判断したためである。

B: 社会人属性(現在の職業分野): 重複回答

B-1 現在の職業 選択 1	メイクアップ(一般ビューティー向け)	96
B-1 現在の職業 選択 2	メイクアップ(プロアーティスト)	87
B-1 現在の職業 選択 3	特殊メイク	16
B-1 現在の職業 選択 4	ボディアート	22
B-1 現在の職業 選択 5	カバーメイク	10
B-1 現在の職業 選択 6	死化粧	6
B-1 現在の職業 選択 7	理美容(ヘア)	120
B-1 現在の職業 選択 8	トータルビューティ	45
B-1 現在の職業 選択 9	ブライダル	41
B-1 現在の職業 選択 10	ネイル	17
B-1 現在の職業 選択 11	エステ	26
B-1 現在の職業 選択 12	美容福祉	35
B-1 現在の職業 選択 13	コメディカル	3
B-1 現在の職業 選択 14	講師	80
		604

社会人においては、現在の職業分野(=専攻分野)にバイアスをおこす他の要素はない。  
しかし、重複回答での分析は複雑になるので、設問⑤「なりたい職業」によって美容系、非美容系にスラスタ化して分析することとした。



社会人における現在の職業は美容師、メイクアップが多い、しかし、他分野にも数値が分散しており、多くの分野からの参加がある。これはエアークラシメイクの応用範囲の可能性を示すもので、メイクだけでなく他分野からの期待が窺われる。

職歴: 記入なしが多いのでデータとして使用できない。

資格: 美容師資格の関係で資格のほとんどは美容師である。分析属性としては不適當。

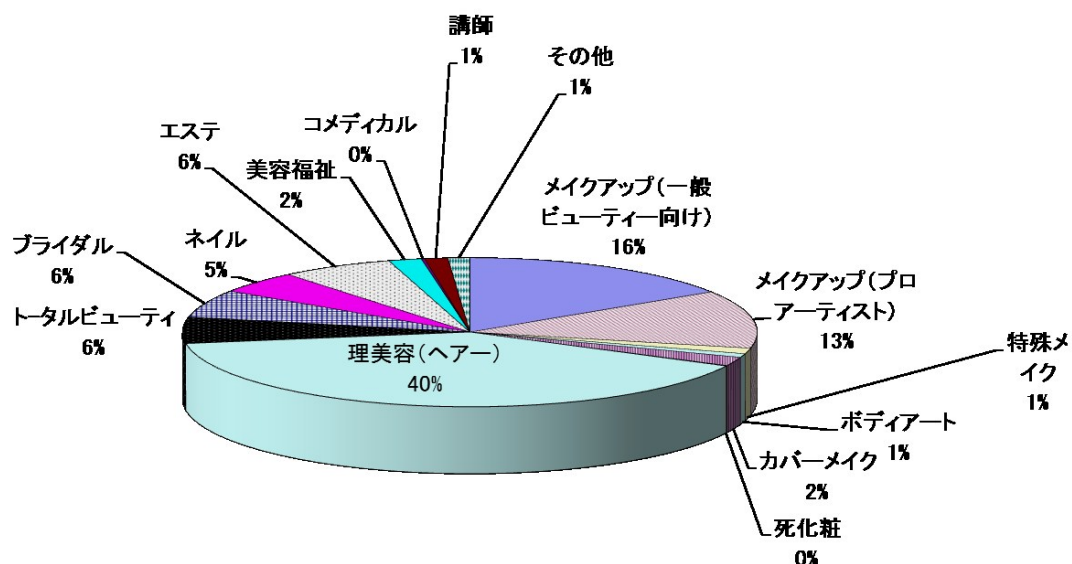
最終学歴: これも美容師資格の関係で多くが専門学校であった。

社会人における職業分野は多様化している。しかしながらサンプル数としては小さいために、設問⑤における「なりたい職業」と共にクラスター化し分析する。

また、社会人と学生の違いによる分析は重要であるとの観点から分析を行なう必要がある。

⑤ なりたい職業(学生、社会人合計)

①理美容師(ヘアー) 40%, ②メイクアップ(一般向け)16%, ③メイクアップ(プロアーティスト)13%, ④エステ 6%, ⑤ブライダル 6%の順であり、「なりたい職業」としては、美容師およびメイクアップ関連を希望する者が多かった。



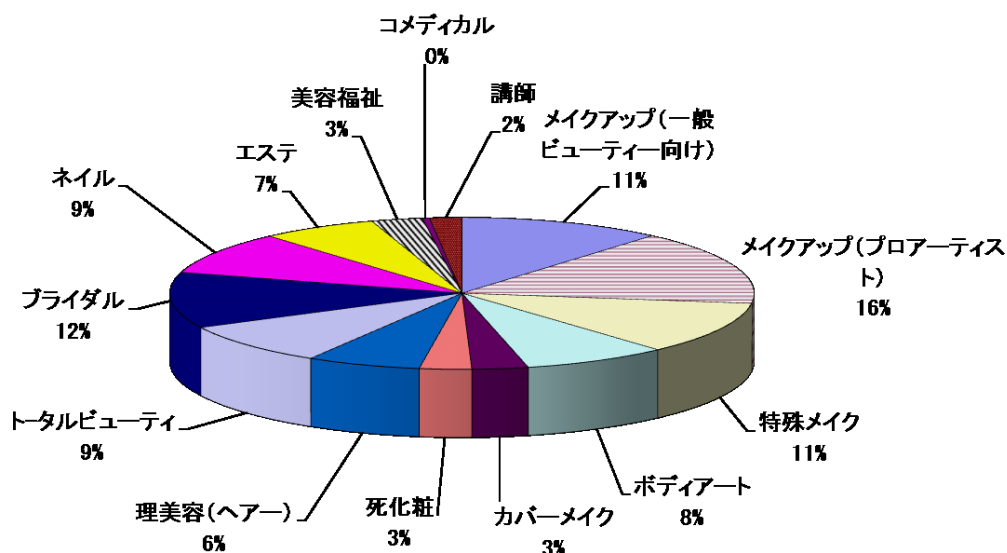
なりたい職業

なりたい職業の選択は多様化している。40%が美容師である。しかし、専門学校の特徴からして、美容系と非美容系の区別は重要である。なぜなら、美容科においては美容師の国家資格の取得を目指すものであり、非美容科系は美容師資格の取得をおこなわない点に特徴があり、メイクアップは美容科においては付随的な科目になることに注意を要する。しかし、本プロジェクトの特別講義は学校側からの申込を受け、特別講義を行っている点を考えると、もともとメイクの必要性を認識した学校が応募していること、また、一方では生徒自身に選択権がないことに注意する必要がある。この点に留意し、本分析では、「なりたい職業」を属性要素として美容科系と非美容科系にクラスター化し、クラスター分析を行うこととした。

もっとも、美容系が多いということは、メイク評価は下方に評価される傾向のバイアスが含まれることになる。以下の分析はすべてバイアスによる修正をしていないため、アンケート評価においてはこのバイアスに留意する必要がある。

⑥ その他興味ある職業(学生、社会人合計)

- ①メイクアップ(プロアーティスト)16%, ②ブライダル 12%, ③メイクアップ(一般ビューティー)11%,  
④特殊メイク 11%, ⑤ネイル 9%の順に多く、なりたい職業とは違いがみられた。



興味のある職業

これは「興味ある職業」は重複回答により調査したため、地味な仕事より、派手な仕事への希望が高いことになる可能性がある。興味は多くの職種に分散していた。理美容は6%であり、「なりたい職業」にくらべ大きく比率が変わる。これは理美容自体が基幹的、基礎的な産業であり、その他の産業はアドバンス的な意味合いがある。また、ここで言う理美容はヘアーアーティストに近い概念を想定していると思われる。

興味ある職業が多様化していることは、今後のそれぞれの発展の可能性を示すものであり、基礎的技術だけでなく、それぞれの分野の各論的技術の確立の必要性を示唆する。

「なりたい職業」と「興味ある職業」に差異がある。現実的な産業としての度合いが影響しているものと思われる。まずは、美容師において確実に生計をたて、さらにメイクアップ、ブライダル等へ希望している。

分析方針: セクション I での上記属性を鑑みて、以後は分析を行が、分析方針として次のように行うこととした。

セクション II では全体として設問ごとの分析評価を行う。

セクション III では美容系と非美容系の差異(属性は「なりたい職業」より 2 極化)を分析する。

セクション IV では社会人と学生の差異を分析する。

セクション V では本調査の有意性測定尺度としての信頼性・妥当性検討をするために因子分析をおこない、アンケート自体の有効性を検証する。

参考資料: アンケート質問用紙(実査に配布したもの)

## セクションⅡ：全体の項目ごとの分析

### ●Q1～Q10:エアープラシメイクの認知度

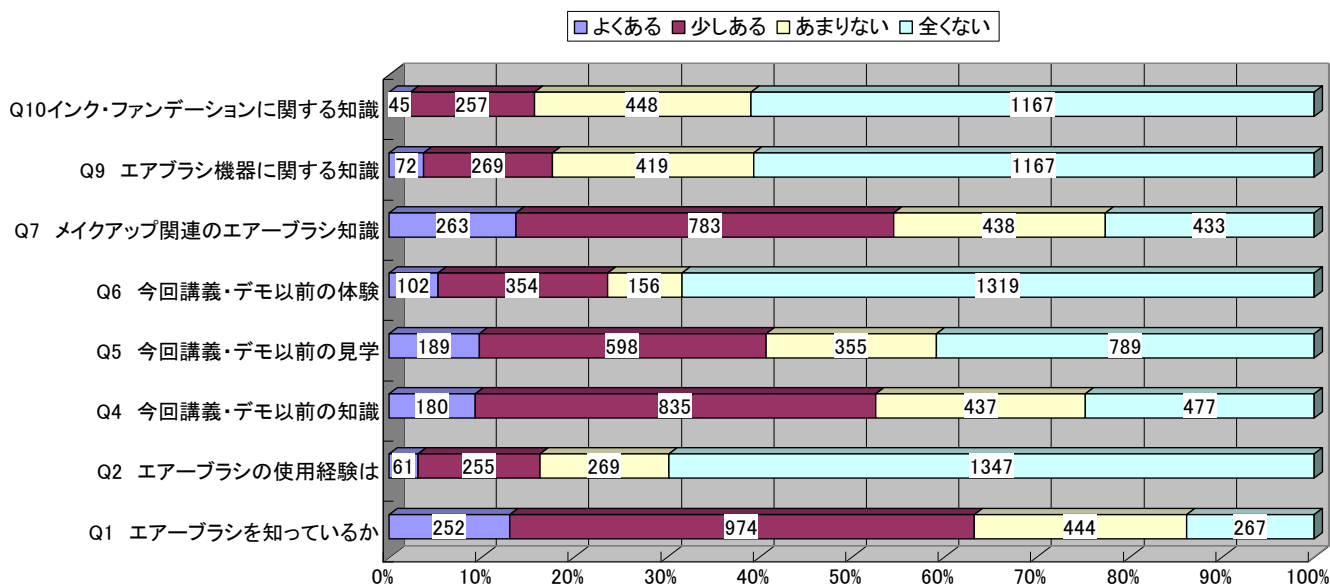


図1 エアープラシメイクの認知度

エアープラシ自体の認知度については、「知っている」50.3%、「よく知っている」13%と60%以上の参加者がエアープラシの存在を認知していた。また、エアープラシの用途別認知ではメイク用が66.6%と最も認知度が高く、次いでネイル用47.1%であり、エアープラシメイクアップに対する認知度は比較的高かった。

しかしその一方、エアープラシメイクアップの使用経験となると「全く使用しない」が69.7%、「あまり使用しない」13.9%と両方あわせると8割以上を占め、「よく使用している」はわずか3.1%であった。

今回の運用講義およびデモンストレーション以前からエアープラシメイクアップの知識を持っていたものは「よく知っている」「少し知っている」をあわせると52.6%と半数を超えていた。しかしながら、見学した経験、実施した体験になるとそれぞれ40.8%、23.6%を急激に減少しており、知識レベルと実践レベルの落差は大変大きいことが明らかになった。

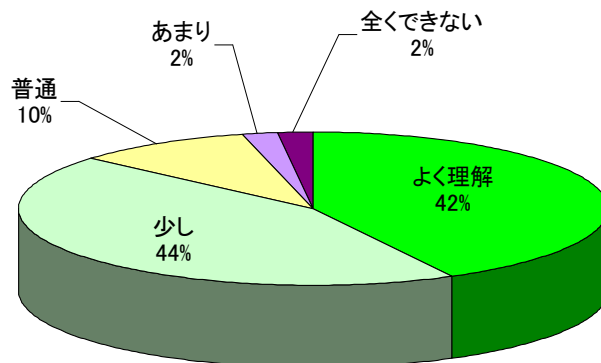
さらに、コンプレッサーやハンドピースなどメイクアップに不可欠なエアープラシ機器の知識では、「よく知っている」「知っている」をあわせても20%に満たず、エアープラシメイクのインクやファンデーションについての知識もまた「よく知っている」「知っている」併せて15.8%と非常に低かった。

これより、エアープラシメイク自体は聞いたことや見たことがあるが、実際には使用したことがなく、細かい知識は全くないと言える。したがって、エアープラシメイクを評価するには一般無差別抽出調査では評価することができない。

我々は、本プロジェクトの目標の一つに、エアープラシメイクの周知とその有用性の評価をあげたが、エアープラシメイクを特別講義において体験させることができた点で意義は大きい。

●Q11～Q15: 特別講義・デモンストレーションを通して得られたエアープラシメイクの理解と評価

Q11: エアープラシメイクの特徴の理解

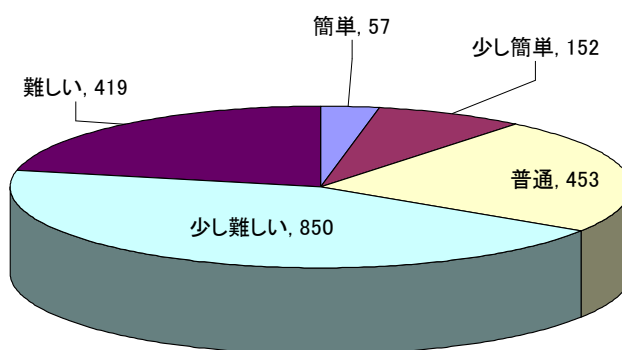


Q11 エアープラシメイクの特徴の理解

特別講義・デモンストレーションを受けた後の知識では、「よく知ることができた」42.1%、「知ることができた」44.3%であり、合計 86.4%と飛躍的にアップしたことが確認できた。

Q12: エアープラシメイクをできると思いますか

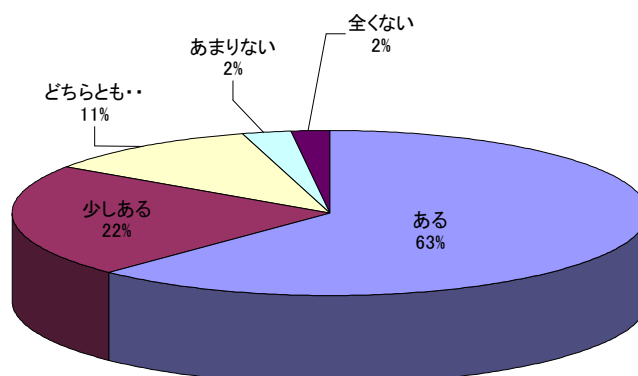
Q12 エアープラシメイク 自分ができそうですか？



しかし、「自分自身がエアープラシメイクをできると思いますか？」という問いに対しては、「簡単」3%、「やや簡単」7.9%と比較的自信を持ってている学生はわずか 10%程度であり、「普通」23.5%を加えても 35%に満たなかった。このことは、エアープラシメイクアップにおける実践的トレーニングの重要性を示唆するものと判断される。



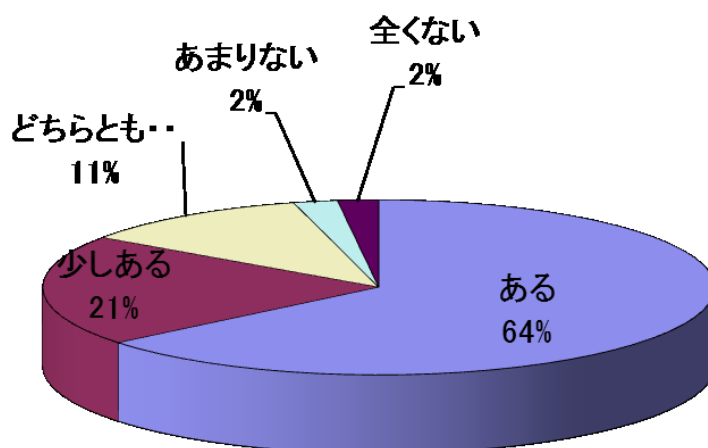
Q13. エアブラシメイクの有用性(使用する価値)はありますか？



Q13 エアブラシメイクの有用性

エアブラシメイクの有用性(使用する価値)について、「ある」63%、「少しある」22%で合計 85%が有用性について評価した。これはエアブラシメイクの良さが認められたものであり、特別講義等を通じて実際に体験することにより評価されたものであることからすれば、理論的側面からではなく、実感としての良さが認められたもので、評価は非常に高い。

Q14. エアブラシメイクの発展、応用の可能性はありますか？

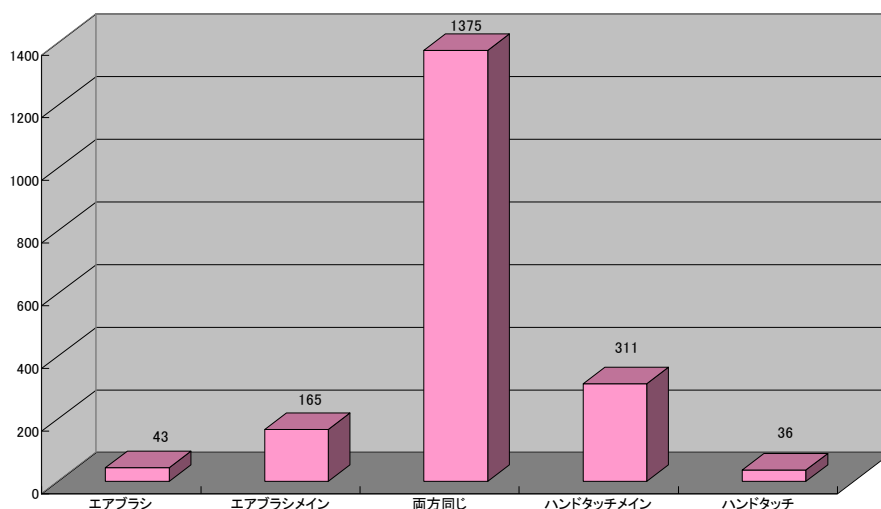


Q14 エアブラシメイクの発展応用の可能性

エアブラシメイクの発展・応用の可能性とは何をさすか具体的な質問項目はない。しかし、特別授業等では、カバー、コメディカル、FXなどへの応用を説明している。

先の設問Q13と比較するとその分布はほとんどが同じである。これは有用性を評価した方は同じようにその応用の可能性も評価しているためである。Q11のエアブラシメイクの特徴の理解にさらさらに評価しているのは、まさにエアブラシの特徴を理解しその発展性を期待、評価するものであろう。

Q15. メイクアップの方法として、ハンドタッチとエアブラシをどう思いますか？



Q15 ハンドタッチとの比較

ハンドタッチとエアブラシの必要性は「両方同じぐらい必要」と評価したものが圧倒的多数(71.2%)であった。また、エアブラシメイン(8.5%)と評価したものよりハンドタッチメイン(16.1%)と評価したものが少し多かったが、これはむしろ「従来の経験による馴染みやすさ」を反映した一種の回答バイアスと考えられる。

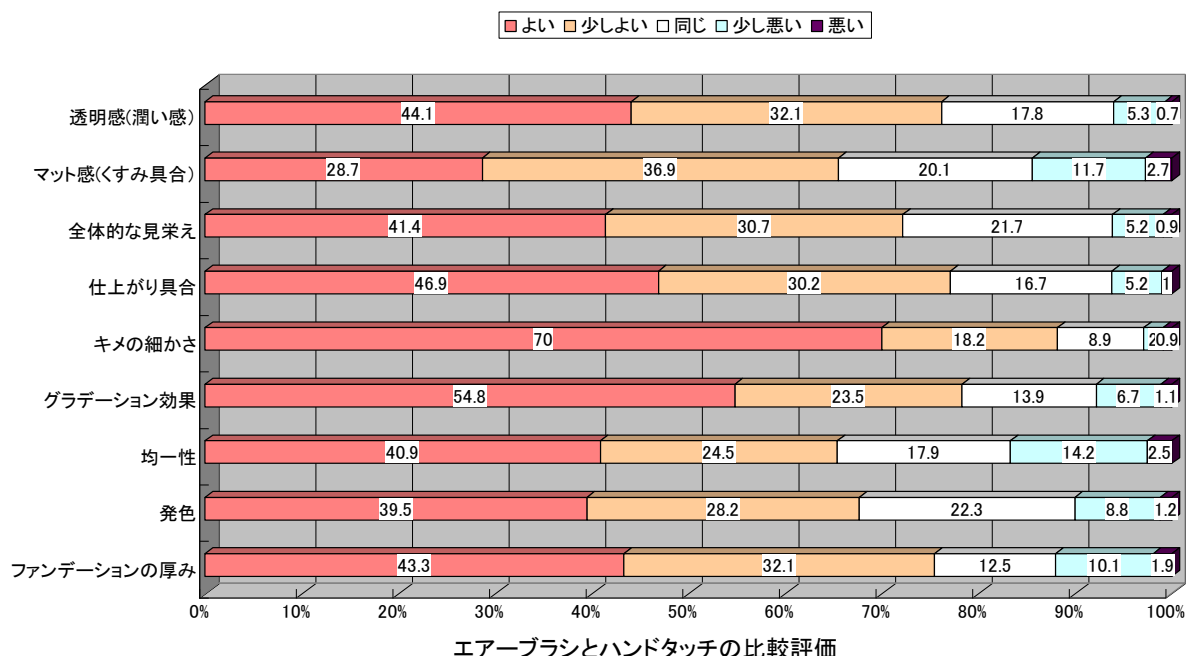
しかし、全くエアブラシを使用していない方が、わずか 1 回の授業によってエアブラシメイクが同じぐらいに必要であるとしている点は大変興味深い。

本プロジェクトではエアブラシがハンドアプライにとって代わるものではなく、相互に補完的関係にあるとしている。しかしながら、ハンドアプライがメインでなく、「両方同じぐらい必要である」が多いことは驚きの結果である。これはまさに、エアブラシメイクの可能性を示すものである。

(ハンドアプライ:ハンドタッチのこと。日本語ではハンドタッチと言うことが多い。しかし、英語ではメイクの方法としてハンドアプライがよく使われるので、今後は本プロジェクトではハンドアプライとした。作成したテキストでも同じ。尚、図表ではアンケート時にハンドタッチの文言を採用したために原表記してある。)

● Q16～Q41:エアープラシとハンドアプライの比較評価 1

Q16～Q41 の設問はハンドアプライ(ハンドタッチ)とエアープラシを比較するものである。  
Q6～Q24 について



上記 9 項目の設問はメイクの総合評価に係るものである。

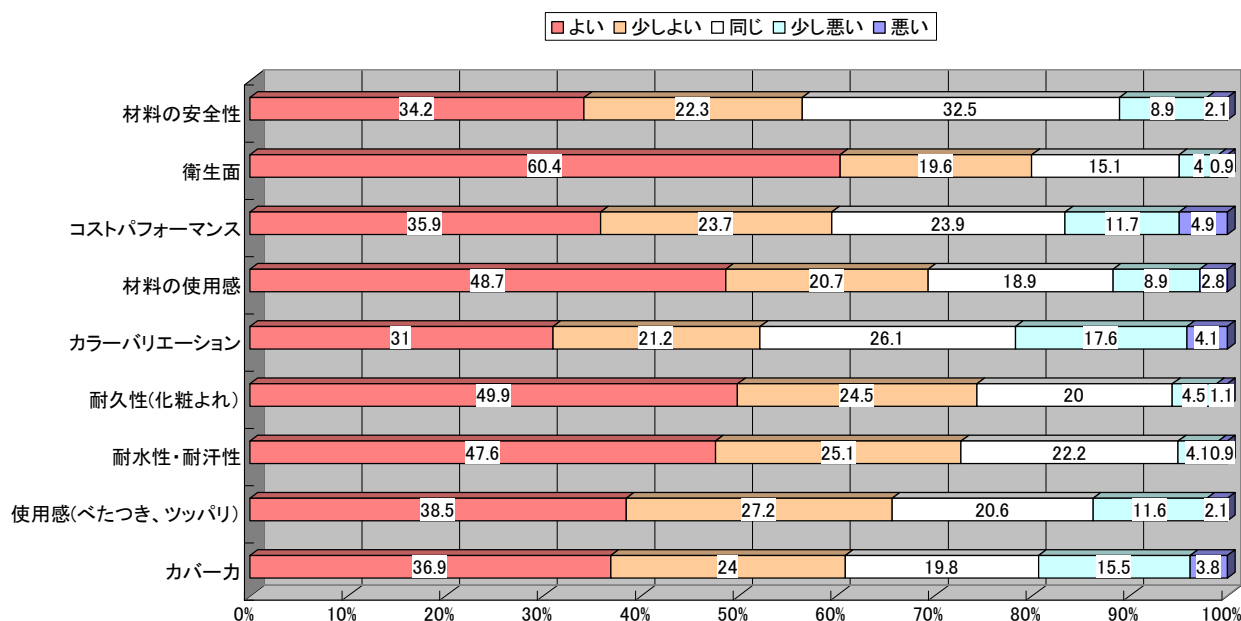
各設問のメイクの状態について「よい」「少しよい」を合計すると、①キメの細かさ 88.2%、②グラデーション効果 78.3%、③仕上がり具合 77.1%、④透明感(潤い感)76.2%、⑤ファンデーションの厚み 75.4%の順で圧倒的にエアープラシメイクの方がよいと評価していた。9項目すべてにおいて60%の人がエアープラシメイクの方を高く評価していた。

これらの設問は、エアープラシメイクの有用性の各要因を説明するものであり、特に薄膜性、発色、均一性は実証されたとと言える。しかしながら、この項目がずば抜けているわけではなく、この項目が起因する、きめの細かさ、グラデーション効果、透明感などがより評価されていることは、本来のエアープラシメイクの機構が理解されているとは言えない。すなわち、エアープラシメイクは通常の化粧品に比べ発色までに時間がかかるのであり、最終的にきめの細かさや透明感、グラデーション効果が良くなるのである。

これは、特別講義においては発色機構などの項目は教授しなかったためであると考えられる。テキストではこの点を踏まえ、科学的な発色、着色機構を丁寧に説明した。

しかしながら、全体を通して、エアープラシメイクの有用性とその評価は高く、実証されたものと言える。

● Q25～Q33: エアープラシとハンドアプライの比較評価 2



エアープラシとハンドタッチの比較(その2)

上記設問はエアープラシメイクのファンデーションやインクに起因するものが多い項目である。特別授業ではエアープラシ用ファンデーションなどの特徴を簡単に説明した。

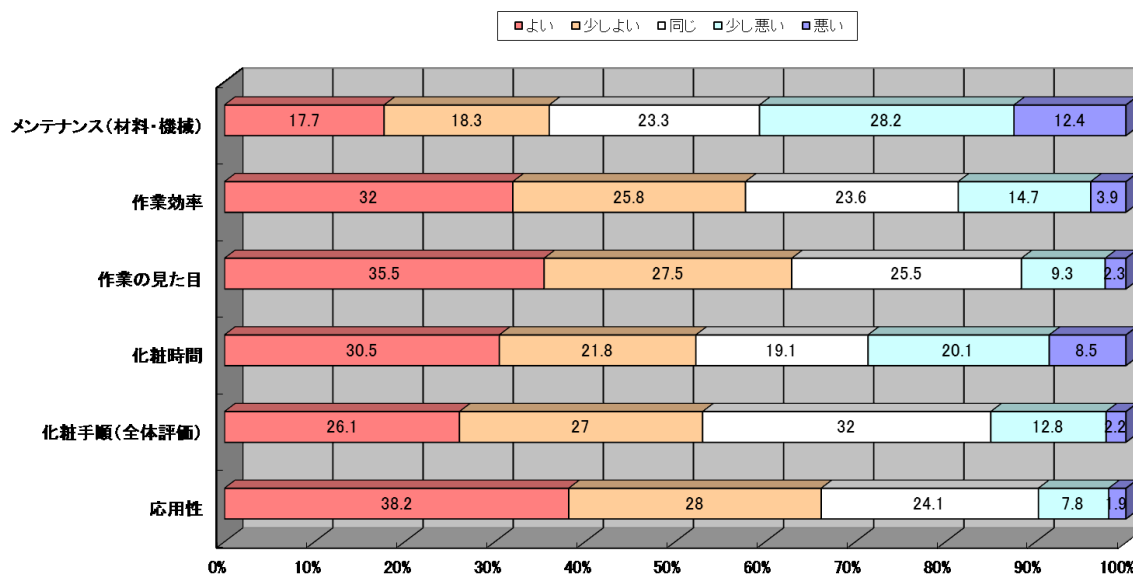
安全面や衛生面、耐水性、使用感等についてもすべての項目で 50%以上が「よい」「少しよい」と評価していた。とくに衛生面では 80%が高評価であり、これは、エアープラシメイクのノンタッチ(非接触)による衛生面が評価されたと言える。

カラーバリエーションは本来、エアープラシメイクにおいては通常のケーキタイプに比べ無限大にバリエーションがあるはずである。すなわち、エアープラシメイクではインクのカラー調合は全く自由に行うことができるのである。そのため、エアープラシメイクではもともとのカラーは数種でよく、それらを調合し、微妙な色合いをその場で調合することができる。しかし、通常のハンドアプライでは、その場で調合することができないために、カラーが初めから 80～120 種用意されている。ここではカラーバリエーションが当初の準備された色であるとの認識の違いがある。特別講義ではカラー理論は行わなかったのも一因である。しかし、テキストブックではカラー理論には多くのページを割り当て説明している。より理解が深まれば評価されることになであろう。

材料の安全性についても他の項目に比べ評価が劣る。これは、材料に対する知識が全くないためである。本プロジェクトでは安全安心については薬事的見地より検討する必要があるとし、別途、薬事検討を報告している。化粧品としての薬事法順法は検討済みであったが、より深い検討は同時並行して行われたために、特別授業では法に触れない程度の説明しかしていない。

テキストブックでは簡単な薬事検討をおこない、ページを割いた。アドバンスではMSDSを使用した検討方法をプログラム化する予定である。。

● Q34～Q41:エアブラシとハンドアプライの比較評価 3



エアブラシとハンドタッチの比較(その3)

上記設問はエアブラシの応用、作業性についての項目である。

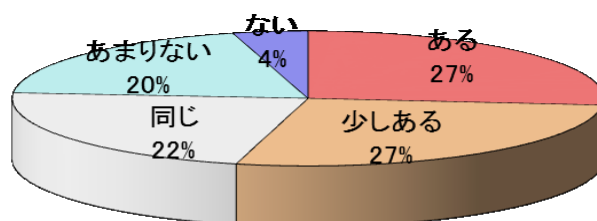
エアブラシの応用に対する評価は高い。化粧時間、化粧手順は全体に良いとするが、高評価ではない。これは機械に触れること自体が初めてである場合も多く、不馴れが一因である。

それでも、「よい」、「少し良い」を合わせると50%を超えている。

メンテナンスは評価が悪い。これは機械を使用する以上は避けることのできない問題である。

最近ではメンテナンスのいらぬ、カートリッジ式も出ているが、この場合はカラーコントロールできない。新規の開発の余地がある。

Q40: 実用性(総合評価として使用できるかどうか)

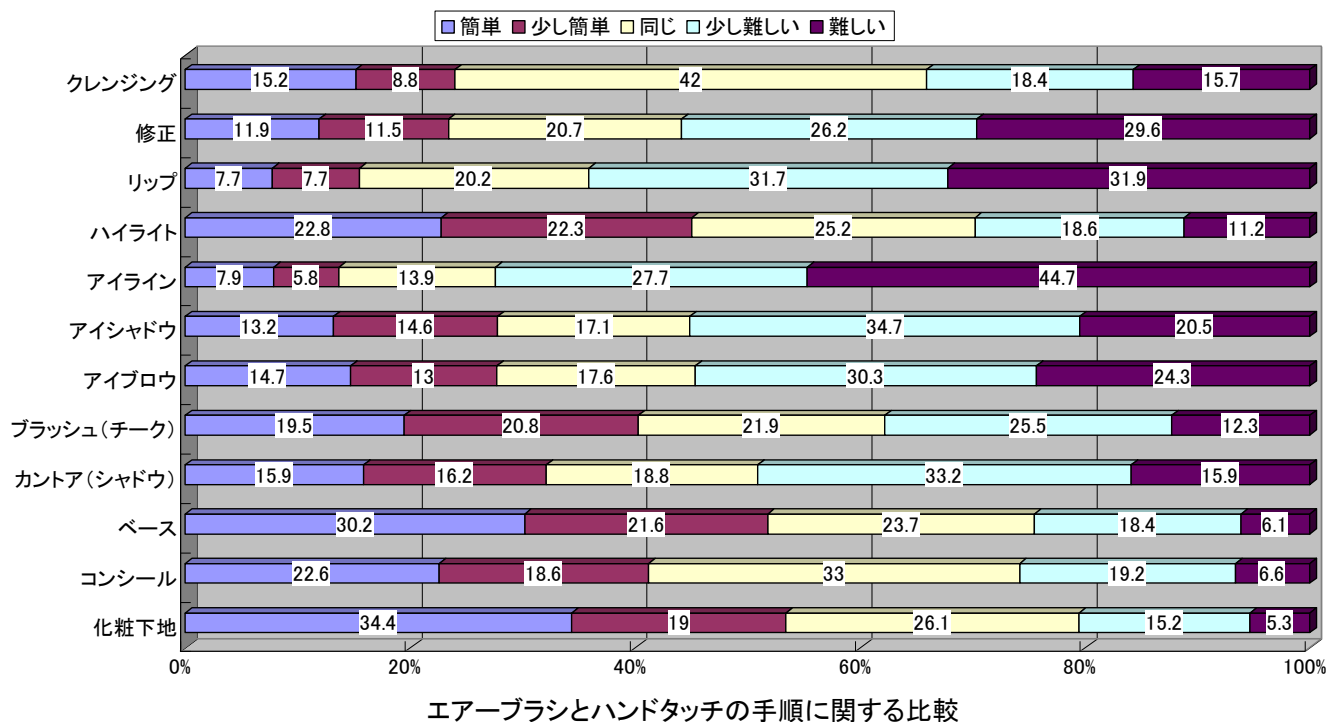


エアブラシメイクの実用性総合評価(使用できるか?)

実用性としては「ある」と「少しある」で54%であり半数以上の方は使用する価値があるとしている。

全体として、50%の評価を切ったのは「メンテナンス」のみである。他の項目は明らかに高評価であり、ハンドアプライとの比較においてはエアブラシの優位が認められる。

● Q42～Q53: エアブラシとハンドアプライのメイク手順毎による比較評価

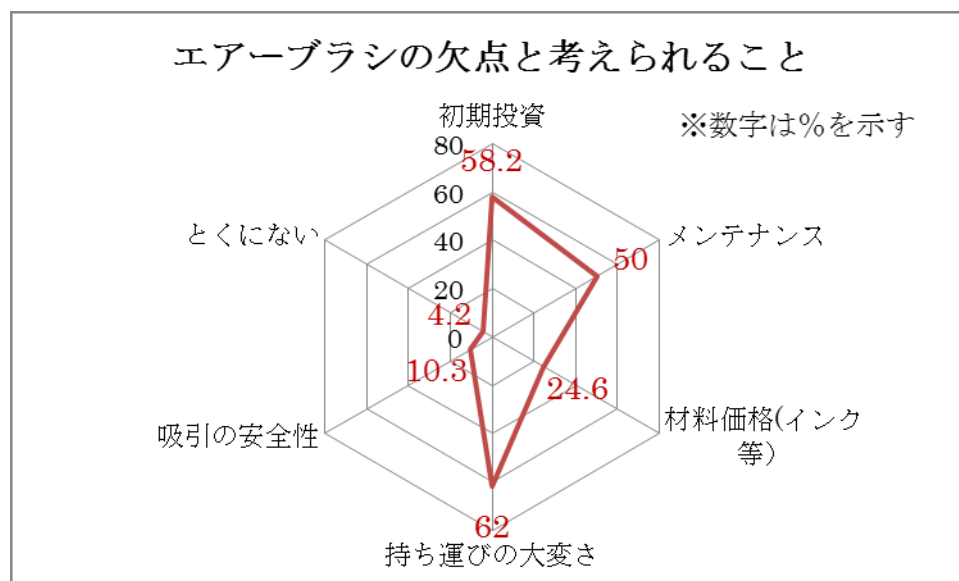


メイクの技術に関しては、ハンドアプライよりも「簡単」「少し簡単」との評価が半数を超えたのは、①化粧下地(53.4%), ②ベース(51.8%)のわずかに 2 項目であった。逆に「簡単」「少し簡単」の回答率が低かった項目は、①アイライン 13.7%, リップ 15.4%, ③修正 23.4%の順であり、ライン系の技術に関する困難さを感じていた。

エアブラシメイクは、見た目は機械を使用するので難しく見える。特別講義ではほとんどの方が初めて手に触れるものである。したがって、操作自体は難しく思えるのは当然である。しかし、ライン系以外は 40%ほどが「簡単」、「少し簡単」としており、十分な練習時間を取れば操作としては難しくない。実際に、最初は難しいが、慣れれば簡単と言うのがプロアーティストの評価である。

テキストではエアブラシの基本操作に十分な時間をとり、練習できるようにした。特にライン系やテンプレートを使ったグラデーションなどは項目を増やした。

●Q54:エアブラシメイクの欠点



エアブラシの欠点として指摘されたのは、①持ち運びの心配 62%、②初期投資 58.2%、⑤メンテナンス 50%の順であり、安全やインクなど材料の価格については低かった。

1、初期投資に関しては、近年、エアブラシメイクの需要の増加に相まって多メーカーの市場参加が価格低下を促してきた。最近ではメイク専用機器も発売され価格は低下してきており初期投資負担は減ってきている。メイク専門学科では個々の生徒が購入できる段階にある。尤も、プロ仕様は一般向けに比べ多少価格が上がる。プロ仕様ではレギュレータなどの器具が必要であり、それらの付属設備を考慮するとすでに価格は加減にあると言える。現在では2万空3万程度あればプロ仕様が購入できる。

2、今回の調査で、特に指摘された、持ち運びの大変さは、商品開発における今後の課題である。しかし、最近ではプラグイン仕様のコンプレッサーでもプロ向けは2KG程度である。しかし、これ以下のものはレギュレータが別であったり、圧力が不足する。

携帯用でも1KGぐらいであるが、まだまだ価格が高い。今後の開発が待たれる。

3、現実にはメンテナンスが最も厄介である。

特別講義ではバックパブル程度の掃除のみでメンテナンスの講義はしない。そのため、次回に使うことがないので、メンテナンスの重要性はあまり認識されなかったと言える。

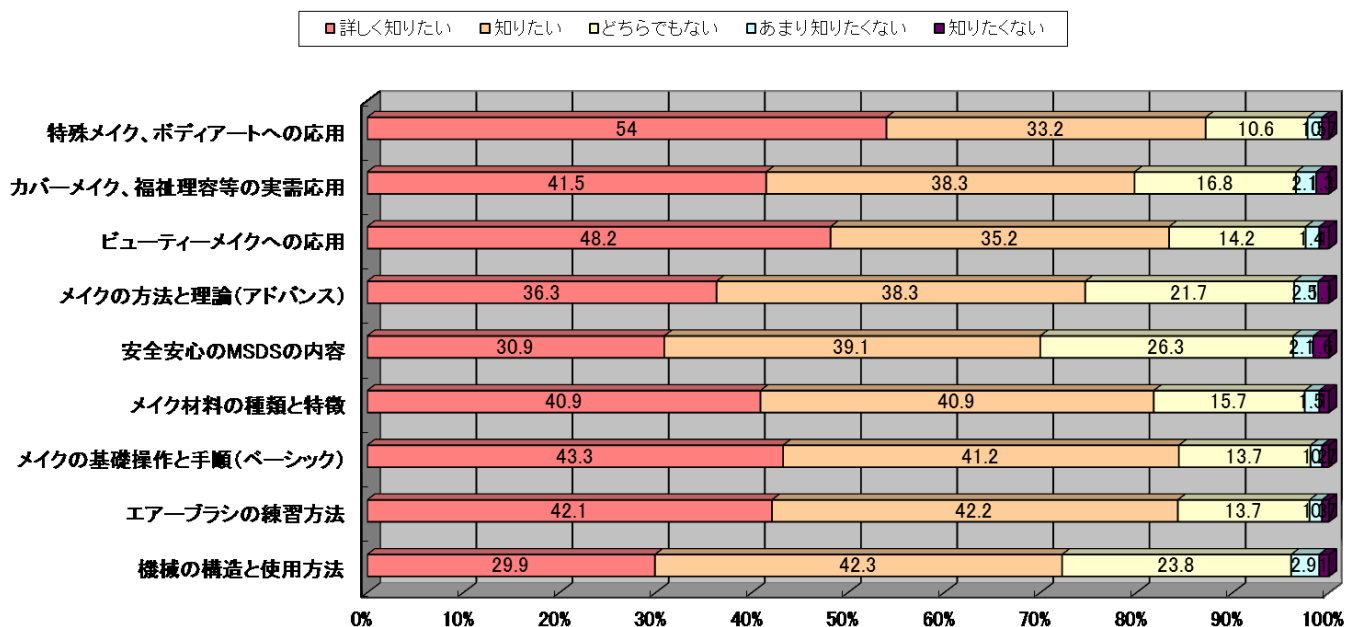
実務においてはメンテナンスできていないための不具合が多く見受けられ、テキストではメンテナンスには特に配慮した。

4、材料価格は想定したほどの数値ではなかった、現在は外国製品しかないが、今後国産品等が開発され、エアブラシメイクの需要が増え、大量生産に結び付けば価格は下がることとなる。しかし、現在価格に対する評価であまり欠点として指摘されていない点においては今後の価格低下はあまり期待できない。

5、吸引の問題はあまり懸念されていない。しかし、社会人においては吸引の問題に関する質問が多く聞かれた。特別講義等では技術中心のためこの点には触れていない。本プロジェクトでは特に吸引の問題は薬事検討として別に報告書を作成している。



●Q55～Q63: 今回の講義・デモンストレーションにおいては、詳しく説明されていない項目に関するニーズ。



今後の講義受講に関する希望状況(講義内容別)

エアブラシメイクに関する今後の受講ニーズは、メイクの基礎操作や手順などのベーシックはもちろんだが、アドバンスや応用技術も含めて、全般的に大変高かった。

特別講義や公開講座は時間的制約のために、エアブラシメイクの周知と評価、特に技術と出来栄えについて行った。そのため、本来重要と思われる項目については省略とした。しかし、講義ではテキストの簡易版を配布し、実際の授業における内容を示し、全体像をつかめるようにした。

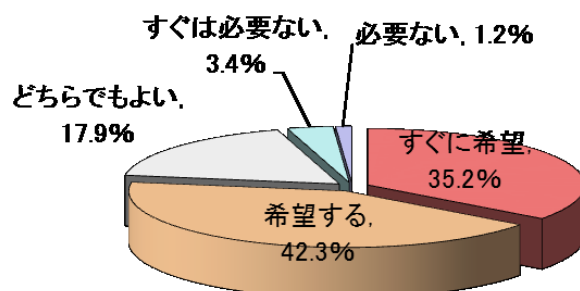
一連の全体像の把握とさらなる基本知識の要請はテキストブックに反映された。しかし、アドバンス項目は今回の目的ではないので、紹介程度に留めた。

アドバンス項目への要請が高いので今後はアドバンス項目のテキスト化に着手しなければならない。



●Q64～Q68:特別講義・デモンストレーション(外国人招聘講座)後の今後の授業に関する希望について

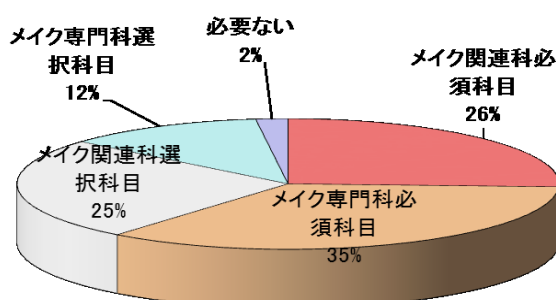
Q64:今後の授業でエアープラシメイクを行ってほしいですか？



### 今後の授業でエアープラシメイクを行うべきか

今後の学習を希望する割合は、「すぐに希望する 35.2%」「希望する 42.3%」と合計 77.5%と大半の学生が希望していた。特別講義でも参加者の興味は高く、すぐに開講すべきであろう。しかし、教授できるものが少なく、すぐにも教授陣の育成が必要である。本プロジェクトでは、運用講義(教授陣育成講座)を1回から4回に増やし早急な教授陣の育成に重点をおいた。

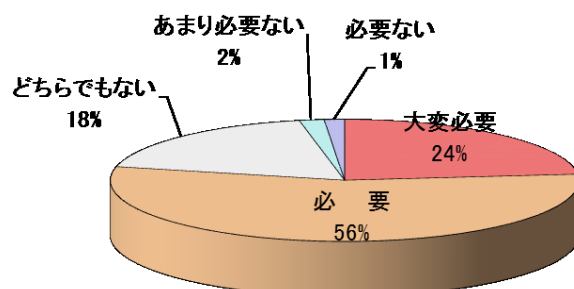
Q65:エアープラシメイクの授業はどの程度重要ですか？



### 専攻／専門による講義の必要性

さらに、エアープラシメイクに関する講義の必要性について、参加者の専攻・専門別による必須・選択別による調査を行ったところ、メイク専門科・メイク関連科の必須科目と考える割合が全体の 61%を占め、「必要ない」はわずか 2%であった。回答の多い準備に①メイク専門科の必須科目 35%、②メイク関連科の必須科目 26%、③メイク関連科選択科目④メイク専門科選択科目の順であった。これは、メイク科においてはエアープラシメイクの講義が必要であると思われ、60%以上のかたが必須にすべきものとしている。これは先のハンドアプライとの必要性を考慮すると、ハンドアプライとエアープラシメイクの両方の技術が必要であり、早期に開講する必要があると結論付けられる。

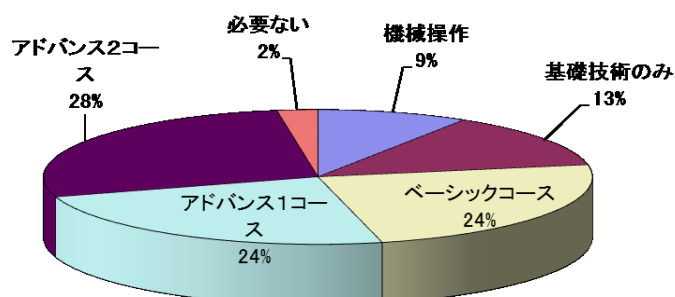
Q66: その他のメイク関連コースにおいてもエアープラシメイクを理解する必要がありますか？



### メイク以外のコースにおける講義の必要性

メイク以外のコースにおけるニーズも高く「大変必要」「必要」の合計は 80%を占めた。これは、メイク関連コースでも当然にエアープラシメイクを知っておくべきものとして認識されていることを示す。今後の産業の変遷に対応するために知識として必要であると認識されていると言える。

Q67: 希望する授業のレベル



### 希望するエアープラシメイク授業のレベル

希望する授業のレベルではばらつきがある。エアープラシでビューティーメイクができる程度は全体の 76%である。簡単な応用分野まで希望する者は 52%いる。アドバンスコース 2 では最大の 28%である。

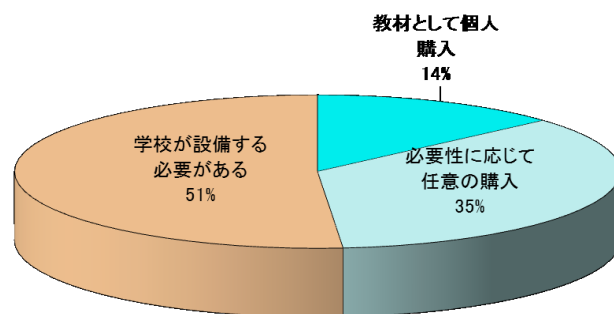
本プロジェクトではビューティーメイクまでをベーシックとしている。この意味では機械操作、基礎技術を含み、全体の 98%を対象としている。したがって、本プロジェクトで制作したテキスト等はほとんどの学生に対し、基礎科目として使用することができる。

希望レベルの差異が平均分散していることは興味深い。すべての生徒がアドバンスまでの上級レベルを必要としていない。しかし、一方では基礎的なことは学ぶべきとしている。

これは一律の過程ではなく、生徒に応じたレベル分けが必要である。

我々が提唱するような、ベーシックコース、アドバンスコースが必要である。

Q68: 機械の生徒自己所有について。



メイク用機械(コンプレッサー等)の個人所有の必要性

エアブラシメイク用機械等の負担に関する質問項目である。

多くは学校が設備すべきとしている。これは当然といえよう。しかし、必要に応じて個人で購入及び教材として個人が購入が 49%でほぼ半数を占める。

これは学校備品設備を(授業のみ使用)と制限をつけているためのバイアスもある。しかし、半数の方は自分で自己用に購入する必要があることを認めている。練習等の時間を考えると必要と思われる。また、先のエアブラシでの欠点において初期投資を欠点として多くの方があげたが、実際のところはそれほどの問題ではないと言える。アドバンスレベルまで教授するコースでは、生徒購入も問題ないと思われる。

●特別講義を終えて

Q75: 特別講義についての評価である。

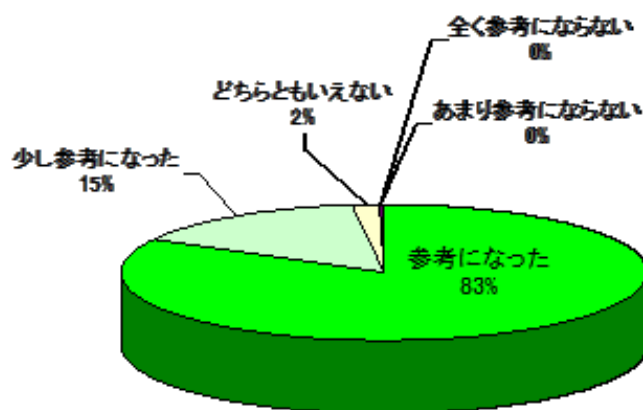


図 特別講義・デモンストレーションの総合的評価

「参考になった」が 83%である。「少し参考になった」と合わせると、98%の方が有益であったとしている。特別講義の評価は大変良い。当初の目的であった、エアブラシメイクの周知は達成されたと言える。さらに、前述の多くの項目の評価を通じ、エアブラシメイクの有用性は実証されたと言える。

Q76: 学校以外でエアープラシメイクを習得する場合、どれくらいの費用が必要だと思いますか？

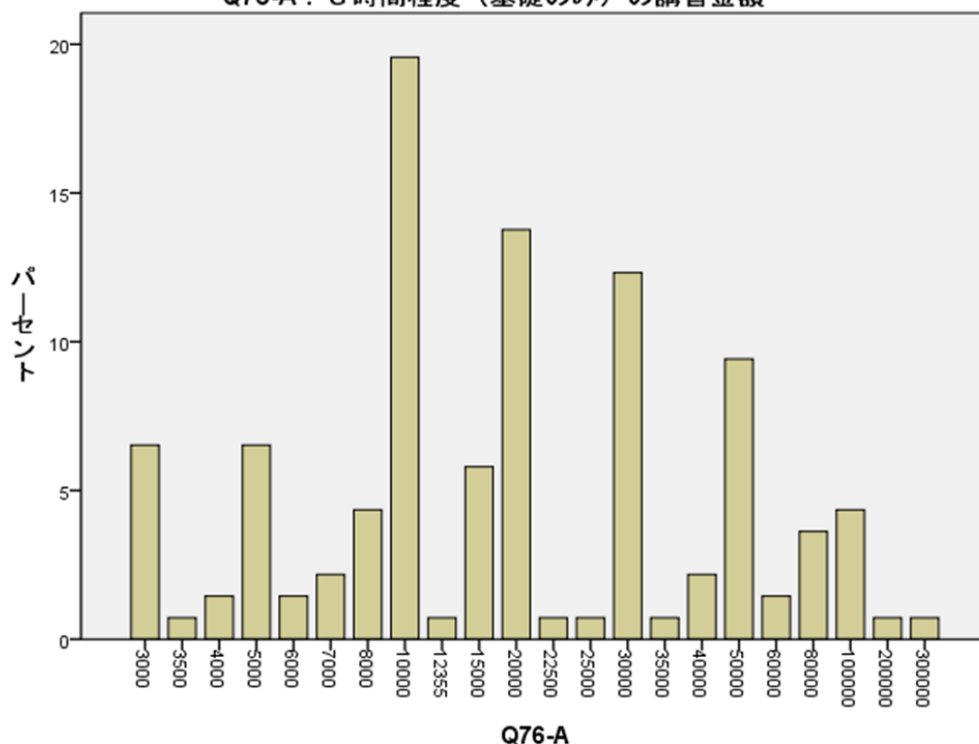
講習にかかる費用の設問であるが学生の場合はあまり意味がない。社会人に絞って考察した。

また、統計量の誤差拡大を防ぐためにQ76-Aは 1000 円以上、50万円以下とし、Q76-Bでは 1 万円以上 1000 万円以下とし、一般妥当な数値の範囲で検討した。

Q76-A

統計量			
		Q76-A	(Q76A<500000 and Q76A>1000) and 社会人の別=2 (FILTER)
度数	有効	138	138
	欠損値	0	0
平均値		28473.59	1.00
中央値		20000.00	1.00
最頻値		10000	1
最小値		3000	1
最大値		300000	1

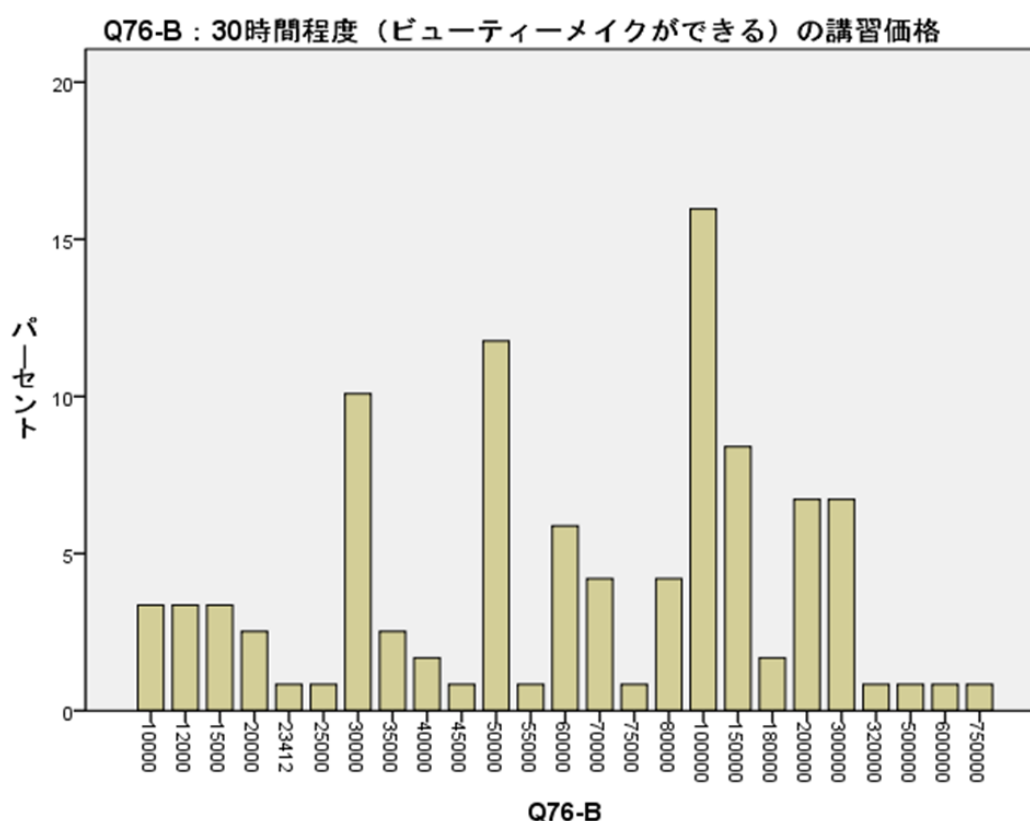
Q76-A : 8 時間程度 (基礎のみ) の講習金額



8時間程度(基礎のみ)の講習金額は 3000 円から 30 万でばらつきが大きい。平均値、中央値、最頻値では 1 万～3 万となる。10 万円までも数値は多いが、しかし、現実問題としては、何人を相手にするかで決定される。1 万～3 万は値ごろ感としては良いし、企業側からも採算ベースに乗るものである。社会人向けの講習は商業ベースに乗り、産業化できる可能性が大きい。

Q76-B

統計量			
		Q76-B	(Q76B<1000000 and Q76B>=10000) and 社会人の別=2 (FILTER)
度数	有効	119	119
	欠損値	0	0
平均値		107364.81	1.00
中央値		70000.00	1.00
最頻値		100000	1
最小値		10000	1
最大値		750000	1



30 時間程度(ビューティーメイクができる)の講習金額は 1 万円から 75 万でばらつきが大きい。平均値、中央値、最頻値では 7 万～10 万となる。ピークが 2 つ見ることができる。これは相対的に安価な価格集団と、高価な価格集団がいることを示すと思われ、価値が 2 分されている。商業ベースでとらえると 4 日～5 日の日程である。最低でも 10 万程度はコストを必要とする。この意味では、7 万～10 万はリーズナブルな値ごろかんのある数値である。また、先と同様に商業ベースにのり、産業化できる可能性がある。

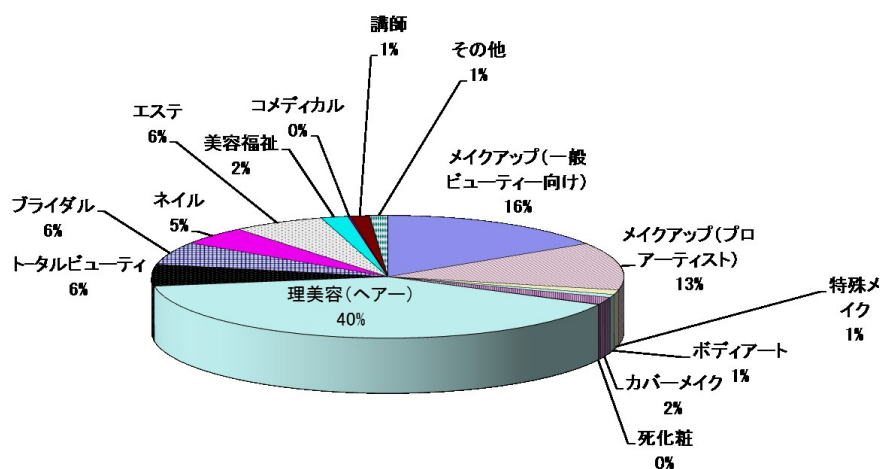
### セクションⅢ：美容系と非美容系の差異

クラスター化：プロフィール設問⑤の「なりたい職業」を美容系（選択 7）および非美容系（選択 7 以外）にクラスター化し、クラスター間での平均値の差異を分析した。（検定：Mann-Whitney のU）

データ数としては美容系（理美容）649、非美容系（1623-648）975 となる

なりたい職業

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有 1 メイクアップ（一般ビューティー向け）	258	15.9	15.9	15.9
効 2 メイクアップ（プロアーティスト）	204	12.6	12.6	28.5
3 特殊メイク	20	1.2	1.2	29.7
4 ボディアート	13	.8	.8	30.5
5 カバーメイク	31	1.9	1.9	32.4
6 死化粧	2	.1	.1	32.5
7 理美容（ヘアー）	649	40.0	40.0	72.5
8 トータルビューティ	93	5.7	5.7	78.3
9 ブライダル	98	6.0	6.0	84.3
10 ネイル	78	4.8	4.8	89.1
11 エステ	103	6.3	6.3	95.4
12 美容福祉	30	1.8	1.8	97.3
13 コメディカル	3	.2	.2	97.5
14 講師	21	1.3	1.3	98.8
15 その他	20	1.2	1.2	100.0
合計	1623	100.0	100.0	

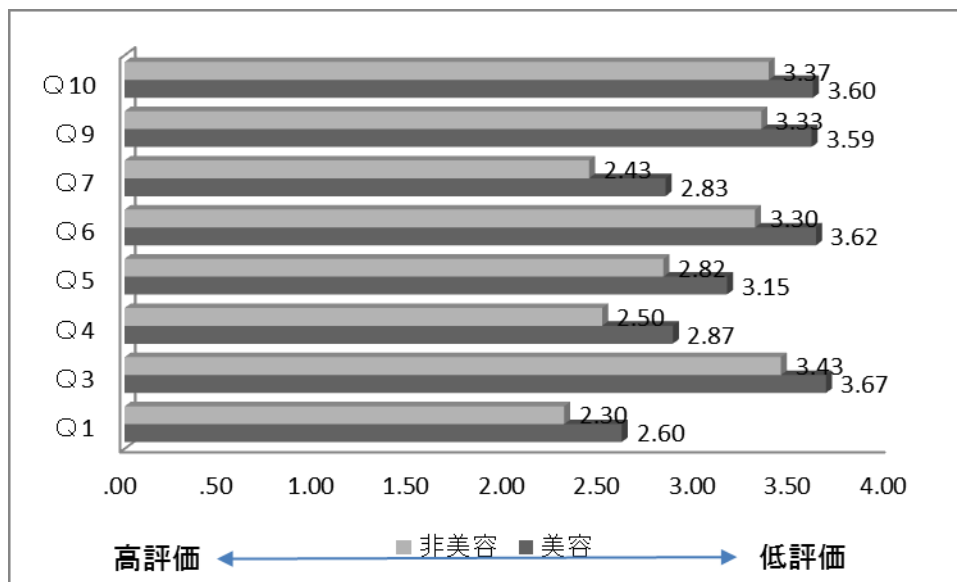


なりたい職業

以下のクラスター間での平均値の差異の分析(検定: Mann-Whitney のU)においてはすべて順序づけられた数値を用いた。すべての設問は 1,2,3,4 または 5 の段階評価であり、これを順序づけられた数値として分析している。したがって 0 の数値はない。

また、1 が高評価で「よく知っている」、「比較してよい」、「ある」、「簡単」などとなる。4 または 5 は低評価となる。

Q1~Q10: エアークラシの認知度について



検定統計量<sup>a</sup>

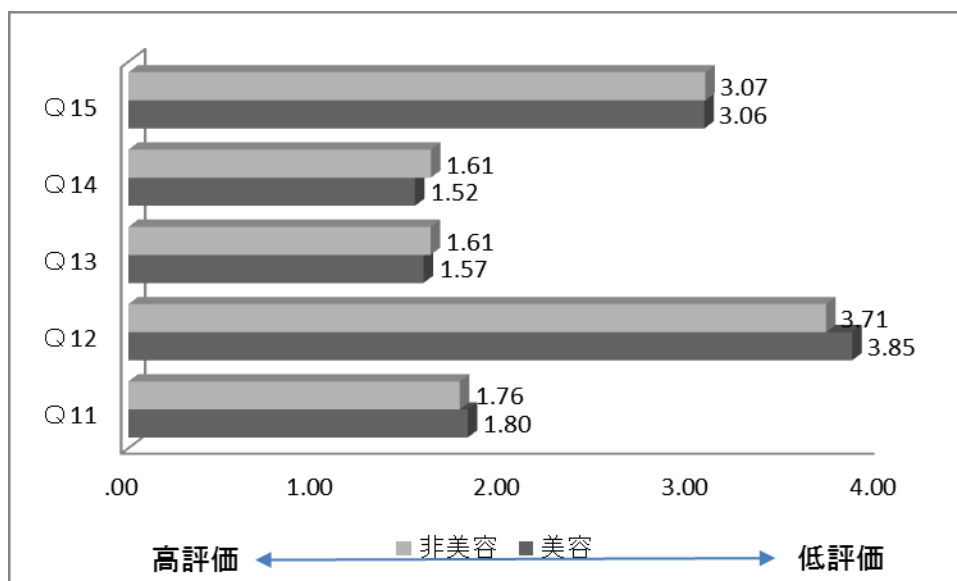
	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q1	253387.500	726265.500	-7.227	.000
Q3	272724.500	744630.500	-5.479	.000
Q4	243412.500	712408.500	-7.941	.000
Q5	259375.000	727403.000	-6.231	.000
Q6	266266.000	737201.000	-6.422	.000
Q7	242289.000	711285.000	-8.163	.000
Q9	269311.500	734441.500	-5.334	.000
Q10	267333.000	727653.000	-5.290	.000

a. グループ化変数: 美容非美容分析

エアークラシの認知度についての質問グループである。非美容系、美容系において顕著に差がみられる。この差分は検定でも有意とされた。

美容系はヘアを中心とするものであり、メイクは付随的なものとなる。非美容系はヘア以外にメイクをより重要としているためエアークラシメイクの認知度が高い。

Q11～Q15: 特別講義のエアブラシメイクの理解と評価



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q11	302628.000	771624.000	-1.252	.211
Q12	288767.000	758732.000	-2.852	.004
Q13	303974.500	513602.500	-1.276	.202
Q14	295128.000	504756.000	-2.379	.017
Q15	308780.000	517761.000	-.613	.540

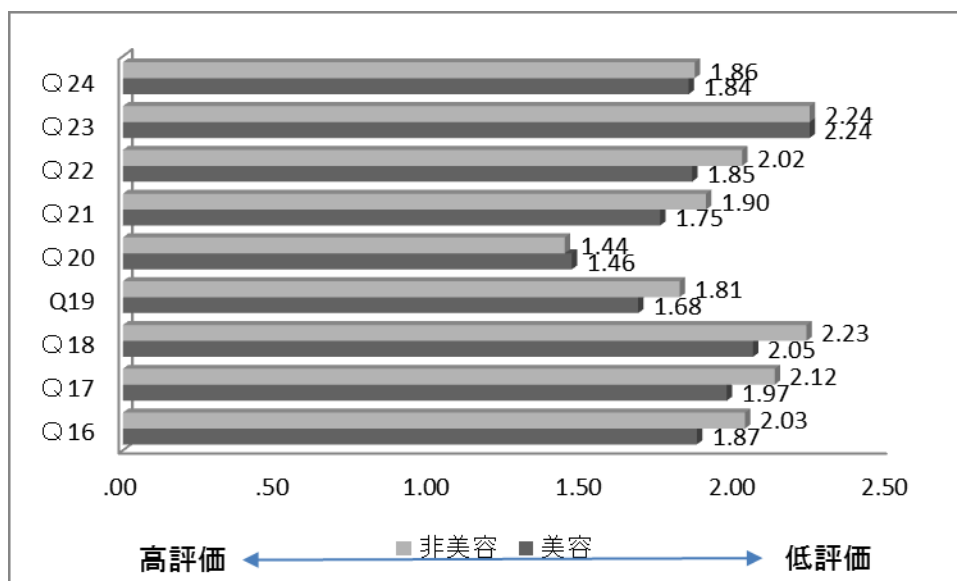
a. グループ化変数: 美容非美容分析

美容系、非美容系間での有意差はない。特にQ11:特徴の理解、Q13:有用性、Q15:エアブラシとハンドアプライの必要性においては全く差がない。Q12:エアブラシができますか?では有意差が認められる。

これは、セクションⅡの全体の分析で明らかのように、もともとのエアブラシの認知度は低く、実際に見るのは初めてのものが多かったこと、非美容系においても、ほとんどが使用したことがないために、もともとの知識が希薄のため、講義を通じての理解にあまり差がなく、同じように理解したと考えられる。ただ、非美容系は多くのメイクを経験しているために、エアブラシの使用に関して躊躇しないために、「Q12:エアブラシができますか」では有意差がみられる。



Q16～Q24:エアープラシとハンドアプライの比較 1



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q16	289887.500	498222.500	-2.587	.010
Q17	285827.500	494162.500	-2.950	.003
Q18	288001.500	496336.500	-2.727	.006
Q19	289152.500	496842.500	-2.716	.007
Q20	309546.000	778542.000	-.161	.872
Q21	284912.500	492602.500	-3.108	.002
Q22	281800.000	489490.000	-3.319	.001
Q23	308832.500	774927.500	-.272	.785
Q24	308988.500	517323.500	-.410	.682

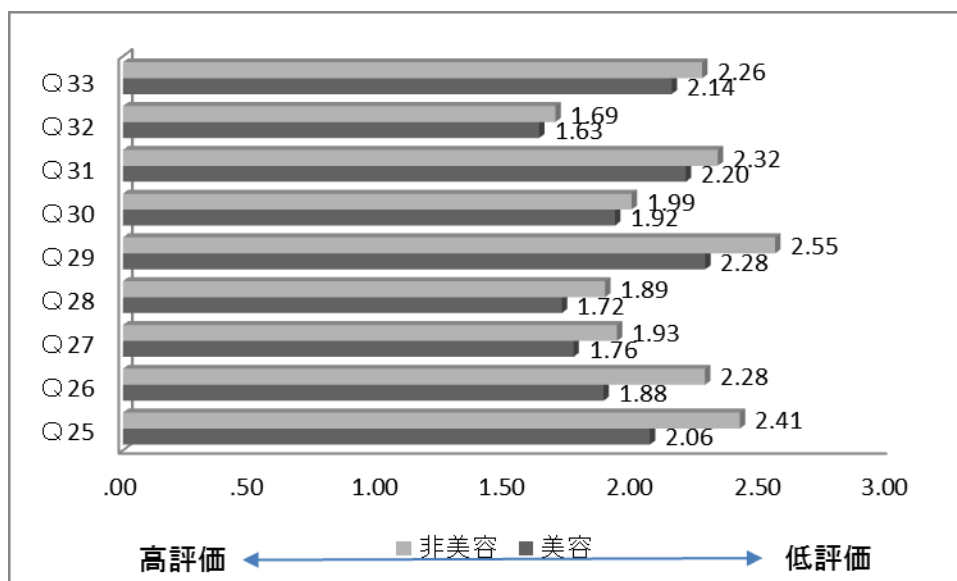
a. グループ化変数: 美容非美容分析

Q16～Q24はメイクの総合評価に係るものである。

評価数値的には2.24以下でエアープラシメイクの評価は高い。また、有意差はQ17、Q21、Q22以外認められない。Q17:発色、Q21:化粧のり、Q22:全体的な見栄えは少し差がみられる。

しかし、非美容系より美容系の評価が高いのは興味深い。これは、非美容系のほうがメイクに関して評価が厳しかったためと言える。ハンドアプライとの比較においてはエアープラシの優位を認めるも、より厳格に評価していると言える。

Q25～Q33:エアープラシとハンドアプライの比較 2



検定統計量<sup>a</sup>

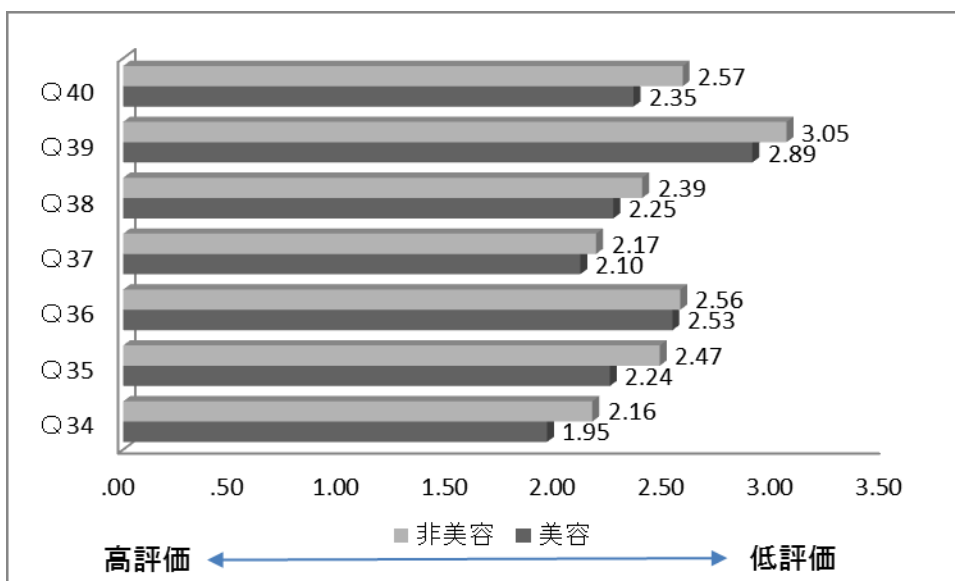
	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q25	264511.000	472201.000	-5.193	.000
Q26	251007.000	458697.000	-6.595	.000
Q27	277162.500	483565.500	-3.420	.001
Q28	280187.500	487877.500	-3.339	.001
Q29	270461.500	478151.500	-4.423	.000
Q30	297347.000	503750.000	-1.242	.214
Q31	283889.000	488369.000	-2.205	.027
Q32	299910.500	507600.500	-1.307	.191
Q33	286410.000	492813.000	-2.226	.026

a. グループ化変数: 美容非美容分析

Q25～Q33 はファンデーション等の材料に係るものである。

評価数値的には 2.55 以下でエアープラシメイクの評価は高い。これもまた、非美容系より美容系のほうが、評価が高い。Q25:カバーカ、Q26:使用感、Q27:耐水性・耐汗性、Q28:耐久性、Q29 カラーバリエーションでは有意差がある。これは、美容系のメイク材料にくらべ、非美容系のメイク材料のほうが、より良いものや多くの種類を使用するために、非美容系の方がメイク材料に対しては知識があるため評価が厳しくなったと言える。

Q34～Q40:エアープラシとハンドアプライの比較 3



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q34	278647.500	485693.500	-3.670	.000
Q35	272333.500	478094.500	-4.182	.000
Q36	303343.000	508463.000	-.474	.635
Q37	299164.000	504925.000	-1.161	.245
Q38	290599.500	497645.500	-2.124	.034
Q39	286146.500	491907.500	-2.332	.020
Q40	276063.000	481824.000	-3.628	.000

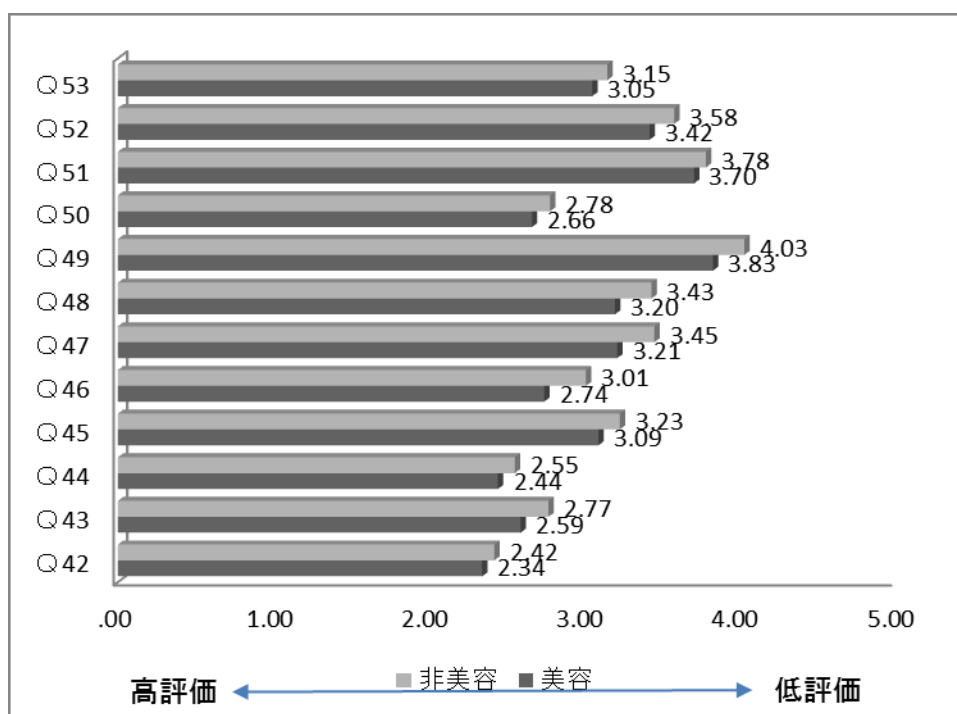
a. グループ化変数: 美容非美容分析

Q34～Q40はメイクの作業性に係るものである。

評価数値的にはQ39:メンテナンスを除き2.57以下でエアープラシメイクの評価は高い。これもまた、非美容系より美容系のほうが、評価が高い。特にQ34:応用性、Q35:化粧手順、Q40:実用性では有意差がみられる。

これは、美容系は機械を使う煩わしさは非美容系にたいして強いと言える。美容系では通常いろいろな機械を使用することが多く機械の使用になれているためと思われる。

Q42～Q53:エアープラシとハンドアプライの比較・メイク手順毎の比較



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q42	297752.000	504798.000	-1.099	.272
Q43	280156.000	486559.000	-2.879	.004
Q44	292032.000	498435.000	-1.619	.105
Q45	286244.000	491364.000	-2.175	.030
Q46	270506.500	477552.500	-4.067	.000
Q47	273008.500	478769.500	-3.666	.000
Q48	274056.000	479817.000	-3.596	.000
Q49	276575.500	481695.500	-3.207	.001
Q50	290503.000	496264.000	-1.662	.096
Q51	292209.500	495412.500	-1.206	.228
Q52	282509.500	485075.500	-2.326	.020
Q53	280332.000	479097.000	-1.585	.113

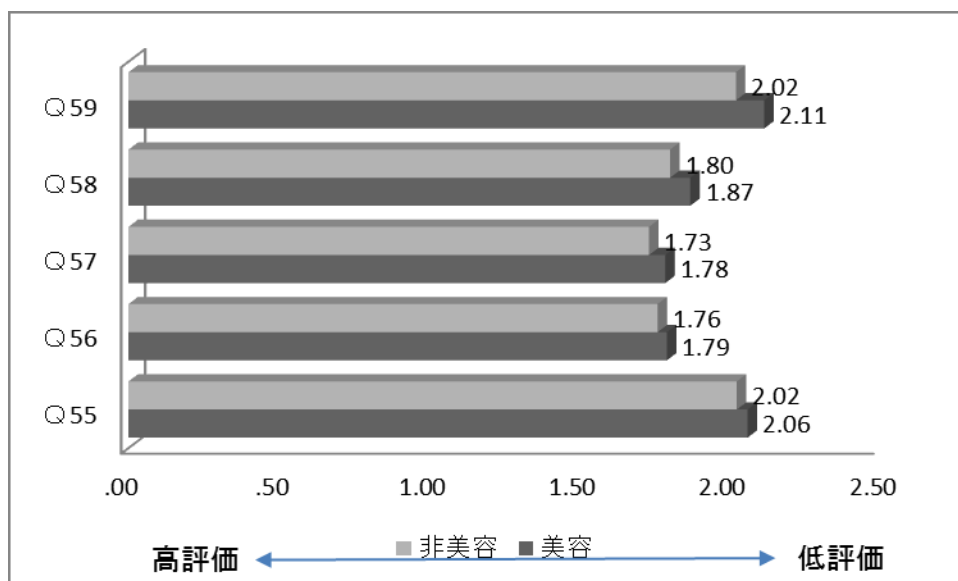
a. グループ化変数: 美容非美容分析

Q42～Q53はメイク手順毎の比較である。

全体の分析で述べるように数値的には評価は低い。これもまた、非美容系の方が厳しい評価である。

特に、Q46:ブラシュ、Q47:アイブロウ、Q48:アイシャドウ、Q49:アイラインなどは有意差をもっている。これらは、エアープラシメイクでも熟練を必要とするものであり、1回の特別講義では特に難しいと感じるものであろう。

Q55～Q59: 特別講義では詳しく説明していない項目について 1



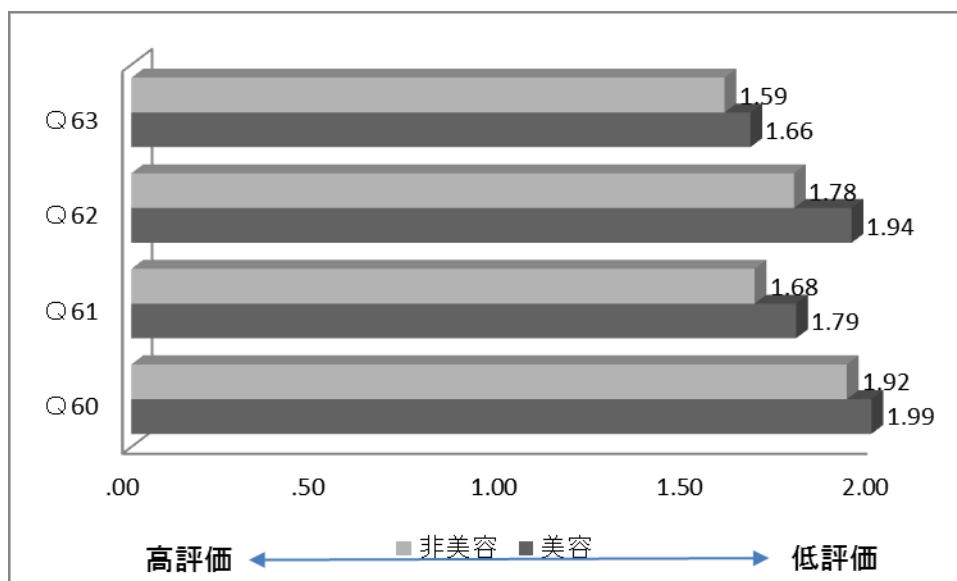
検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q55	296526.000	759729.000	-1.273	.203
Q56	298180.000	758500.000	-1.100	.271
Q57	292964.500	754244.500	-1.710	.087
Q58	289748.500	751989.500	-2.114	.035
Q59	285856.500	748097.500	-2.424	.015

a. グループ化変数: 美容非美容分析

評価数値は高く2.11以下である。ほとんど有意差は認められないが、非美容系の評価の方が高い。非美容系の方がエアークラシメイクに対して積極的である。

Q60～Q63: 特別講義では詳しく説明していない項目について 2



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q60	292717.000	755920.000	-1.718	.086
Q61	281588.500	742868.500	-2.920	.004
Q62	274127.500	734447.500	-3.780	.000
Q63	291523.500	753764.500	-1.907	.057

a. グループ化変数: 美容非美容分析

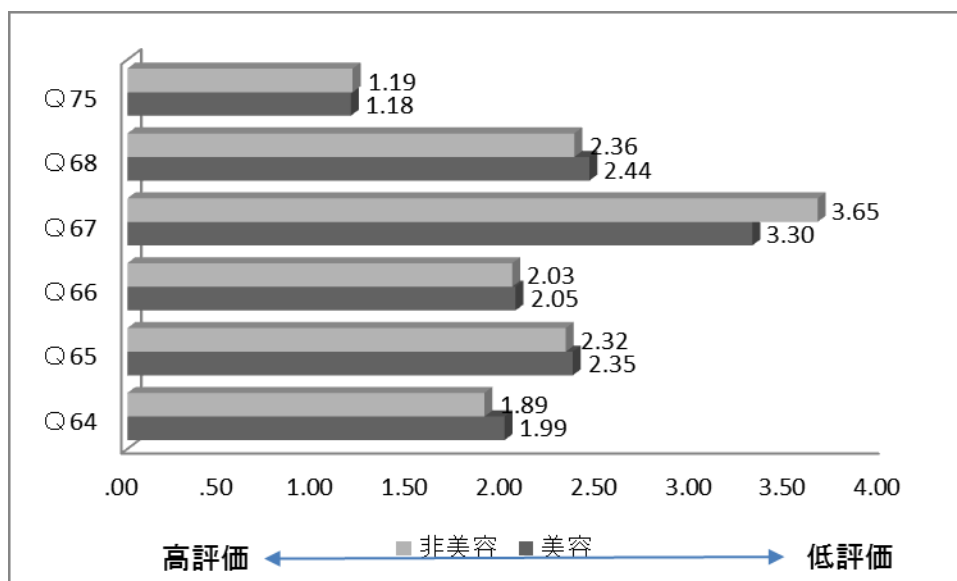
評価数値は高く1.99以下である。非美容系の評価の方が高い。

非美容系の方がエアークラシメイクに対して積極的である。

Q61:ビューティーメイクの応用(ブライダル、ファンタジー)で少し有意差があり、また

Q62: 実需応用は有意差が認められ、非美容系のヘア以外への産業志向がみられる。

Q64～Q68: 今後授業について、Q75: 特別講義の評価



検定統計量\*

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q64	283925.000	742328.000	-2.640	.008
Q65	294354.500	746079.500	-.952	.341
Q66	293525.500	742403.500	-.770	.441
Q67	252795.000	452823.000	-5.273	.000
Q68	271485.500	696066.500	-2.215	.027
Q75	265539.500	446440.500	-.587	.557

a. グループ化変数: 美容非美容分析

「Q67:どのくらいの内容まで授業をしてほしいか」の設問ではデータの順が逆位になっている。本分析ではデータの反転を行っていないため低評価と高評価が反対になります。

Q64～Q68の今後の授業については非美容系の方がより積極的である。

特に有意差のある、Q67(データは反転して解釈)ではよりアドバンスを目指すことが有意差をもって検証された。

Q75: 特別講義の評価は美容系、非美容系どちらも大変評価が高い。

総括:美容系、非美容系のクラスターによる分析は全体としてほぼ同じ傾向にあるが、非美容系の方がエアープラシメイクに積極的である反面、エアープラシメイクの個別評価に対しては評価基準が厳しいと言える。

しかし、両者ともエアープラシメイクに対する評価は高い。

### セクションⅣ:社会人と学生の差異

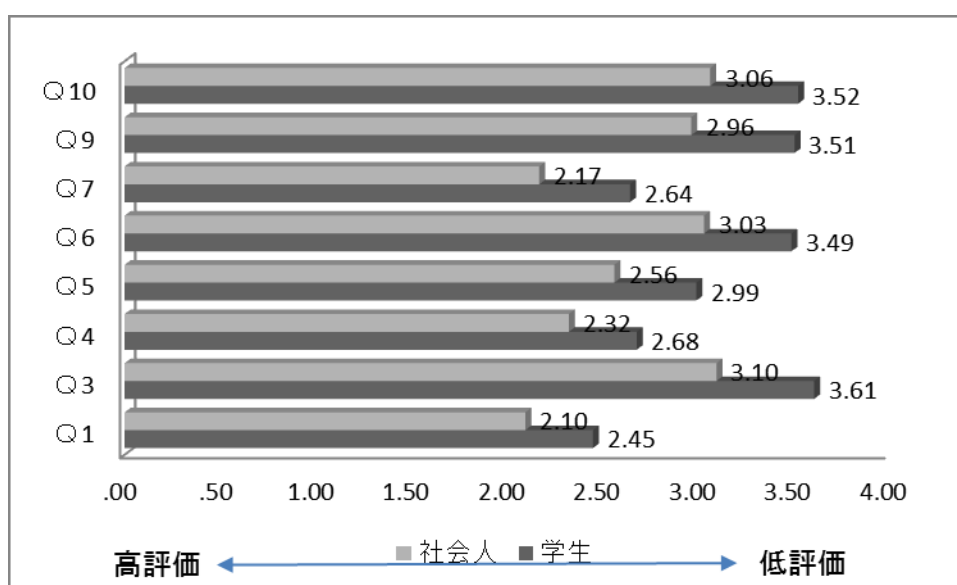
社会人と学生ではメイクアップに対する姿勢が異なると考えられ、各設問において平均の差異の分析をおこない、社会人と学生との違いを分析する。

学生／社会人の別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	学生	1538	79.0	79.2	79.2
	社会人	403	20.7	20.8	100.0
	合計	1941	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	6	.3		
合計		1947	100.0		

データ数は学生 1538、社会人 403、合計 1941 である。

Q1～Q10:エアークラシの認知度について



検定統計量<sup>a</sup>

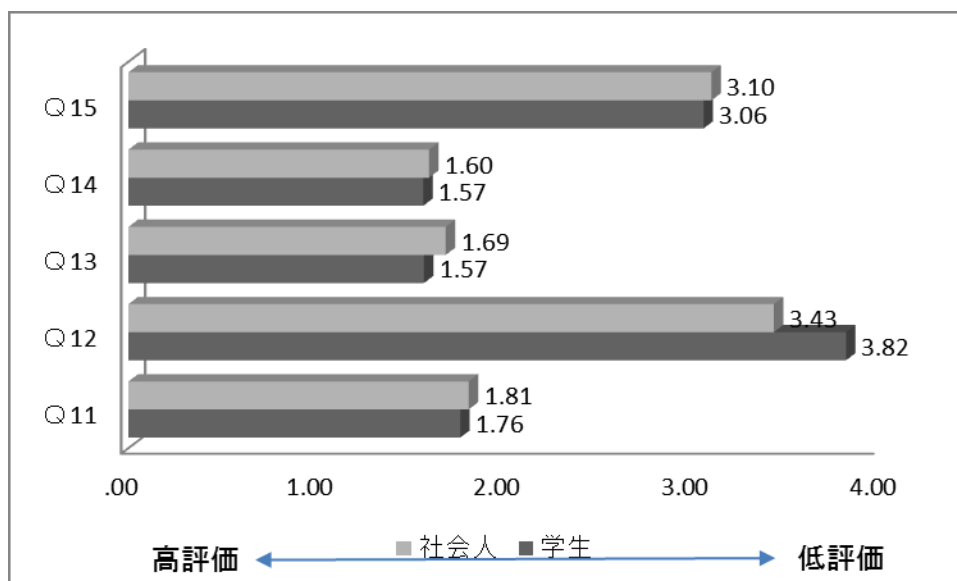
	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q1	236272.500	315275.500	-7.446	.000
Q3	223726.000	302332.000	-9.911	.000
Q4	238991.000	317201.000	-6.762	.000
Q5	236657.000	314867.000	-7.032	.000
Q6	235633.500	313843.500	-8.227	.000
Q7	221745.500	300351.500	-8.629	.000
Q9	210298.500	289301.500	-10.718	.000
Q10	219544.500	297359.500	-9.329	.000

a. グループ化変数: 社会人の別

エアークラシの認知度についての質問グループである。学生、社会人において顕著に差がみられる。この差分は検定でも有意とされた。美容、非美容との差分より大きく、社会人のエアークラシメイクへの予備知識は他に比べあると言える。



Q11～Q15: 特別講義後のエアープラシメイクの理解と評価



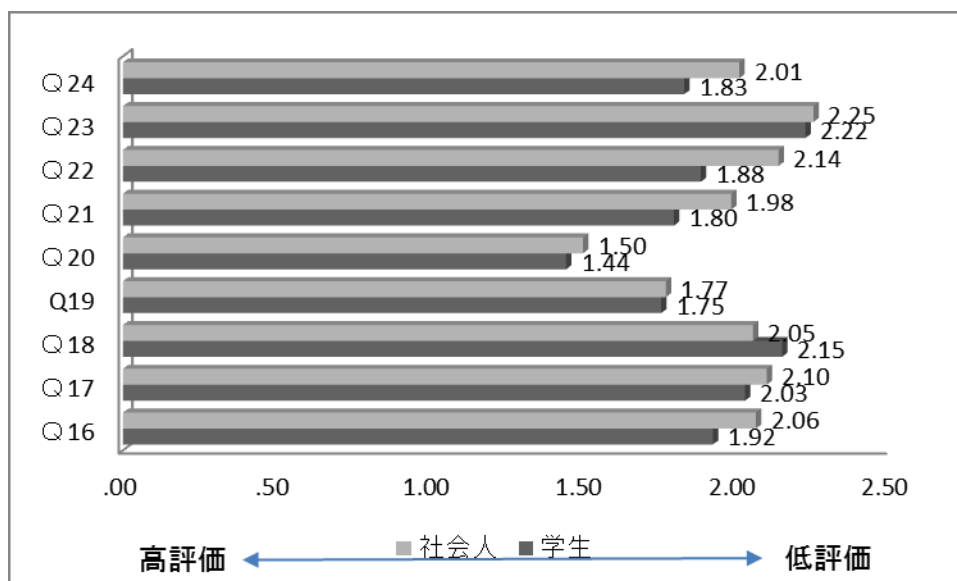
検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q11	288912.000	1461658.000	-1.244	.214
Q12	237749.000	316355.000	-6.983	.000
Q13	286425.000	1462236.000	-2.004	.045
Q14	298914.000	1470129.000	-.479	.632
Q15	288060.000	1463871.000	-1.493	.136

a. グループ化変数: 社会人の別

「Q12:エアープラシメイクをできると思いますか」では有意差がある。美容系、非美容系の分析にくらべてもその差は大きい、できる方へ評価されている。これは、社会人が、知見が多く、学生に比べエアープラシに慣れていると思われる。その他はあまり差がない。

Q16～Q24:エアープラシとハンドアプライの比較 1



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q16	276500.000	1447715.000	-2.059	.039
Q17	277016.000	1449762.000	-1.596	.110
Q18	280964.000	354500.000	-1.286	.199
Q19	291398.500	1461083.500	-.335	.738
Q20	281386.000	1449542.000	-1.635	.102
Q21	257420.000	1427105.000	-3.701	.000
Q22	249848.500	1416476.500	-4.524	.000
Q23	282527.500	1452212.500	-.621	.535
Q24	266467.000	1436152.000	-2.913	.004

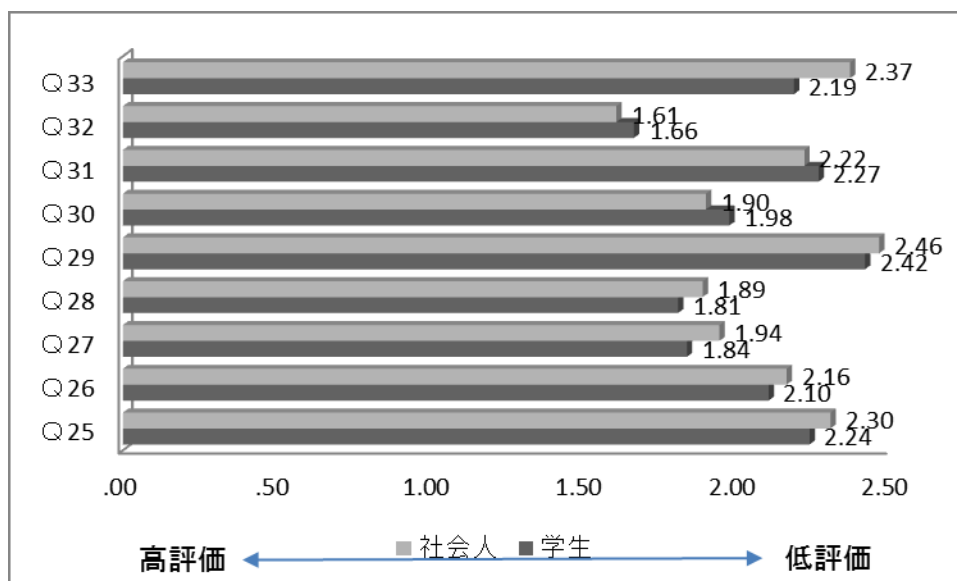
a. グループ化変数: 社会人の別

Q16～Q24はメイクの総合評価に係るものである。

評価数値的には 2.25 以下でエアープラシメイクの評価は高い。Q21:化粧のり、Q22:全体的な見え、Q24 透明感に有意差がある。しかし、Q18:均一性以外は学生より社会人の評価が低い。これは、美容、非美容系分析同様に、社会人のほうが学生に比べメイクに関して評価が厳しかったためと言える。ハンドアプライとの比較においてはエアープラシの優位を認めるも、より厳格に評価していると言える。

美容・非美容の比較に比べQ24:透明感、は学生・社会人では大きく変わる。しかし、Q18:均一性では社会人の評価は高い。これはメイクに関しての評価は、社会人の方が知識があるためにより正確に評価されているためと思われる。

Q25～Q33:エアープラシとハンドアプライの比較 2



検定統計量<sup>a</sup>

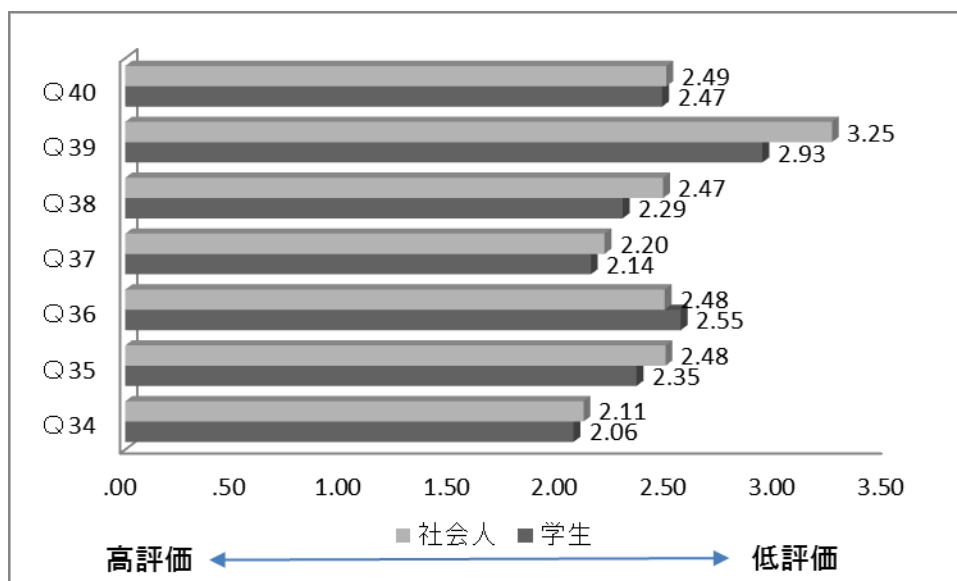
	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q25	277504.000	1450250.000	-.959	.337
Q26	270109.000	1439794.000	-.913	.361
Q27	248536.500	1410586.500	-2.310	.021
Q28	259290.000	1427446.000	-1.747	.081
Q29	275758.500	1443914.500	-.838	.402
Q30	270330.500	337491.500	-1.001	.317
Q31	261728.000	323153.000	-.448	.654
Q32	282975.500	354228.500	-.581	.562
Q33	244632.500	1405158.500	-2.922	.003

a. グループ化変数: 社会人の別

Q25～Q33 はファンデーション等の材料に係るものである。

評価数値的には2.46以下でエアープラシメイクの評価は高い。多くの項目は、学生より社会人のほうが、評価が低い。しかし、美容・非美容系の差分に比べその差分は小さくなっており、有意差がほとんどないQ30:材料の使用量、Q31:コストパフォーマンス、Q32:衛生面では社会人のほうが、評価が高い。美容・非美容系では非美容性の評価が低かった項目である。これは、非美容系より社会人の材料にたいする見識は高いこと、コスト等にはより敏感に反応すると思われ、エアープラシメイクが社会人に認められたことは特筆すべき点である。

Q34～Q40:エアープラシとハンドアプライの比較 3



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q34	276726.500	1446411.500	-1.014	.311
Q35	265417.500	1428992.500	-2.159	.031
Q36	275326.500	344332.500	-.842	.400
Q37	277970.500	1440020.500	-.772	.440
Q38	257774.500	1422875.500	-2.688	.007
Q39	238531.500	1399057.500	-4.320	.000
Q40	275204.500	1434207.500	-.448	.654

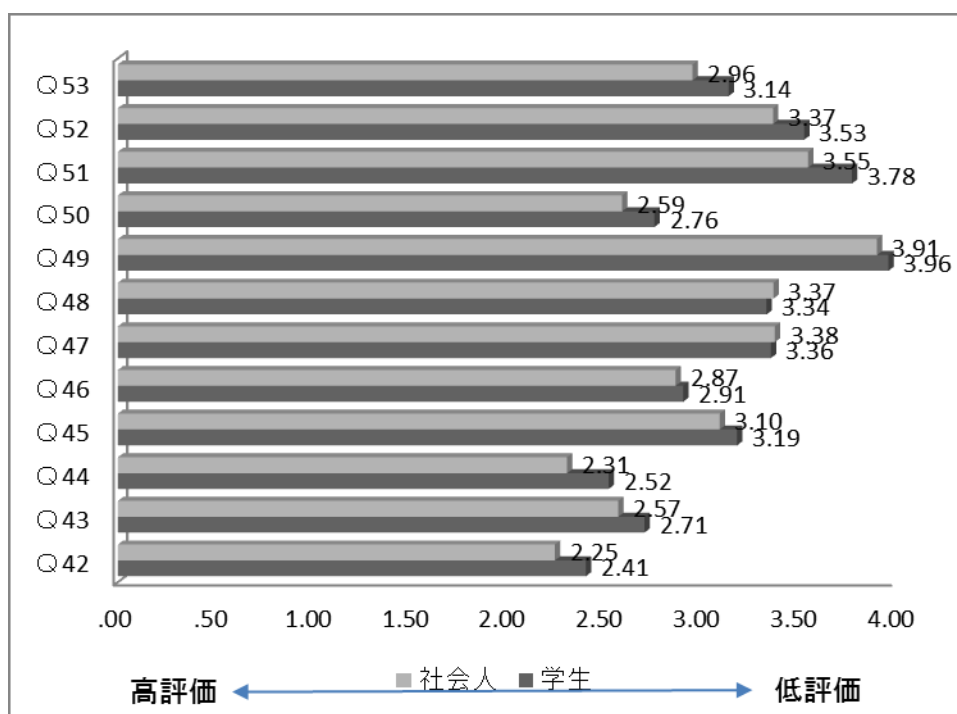
a. グループ化変数: 社会人の別

Q34～Q40はメイクの作業性に係るものである。

評価数値的にはQ39:メンテナンスを除き2.55以下でエアープラシメイクの評価は高い。これもまた、社会人のほうが学生より評価が低い。特にQ39:ではメンテナンスでは有意差がある。美容・非美容系の分析では有意差がなかった項目である。社会人においてもそのほとんどはハンドアプライであり、そのため機械を使用する煩わしさはより顕著となると思われる。

Q34:応用性、Q35:化粧手順、Q40:実用性では美容・非美容の分析では有意差がみられたが、ここでは有意差がなくなっている。これは、社会人が現実的に直面している経験に照らし評価されていると考えるべきである。

Q42～Q53:エアープラシとハンドアプライの比較・メイク手順毎の比較



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q42	264389.000	333024.000	-1.870	.061
Q43	261842.500	330107.500	-1.870	.061
Q44	256716.500	326467.500	-2.821	.005
Q45	271461.500	341586.500	-1.270	.204
Q46	278493.000	348618.000	-.481	.630
Q47	279994.000	1428364.000	-.114	.910
Q48	278189.000	1426559.000	-.229	.819
Q49	267800.000	336065.000	-1.268	.205
Q50	262830.000	332208.000	-2.043	.041
Q51	240781.000	306847.000	-3.743	.000
Q52	256012.500	323540.500	-2.329	.020
Q53	235148.500	295179.500	-2.742	.006

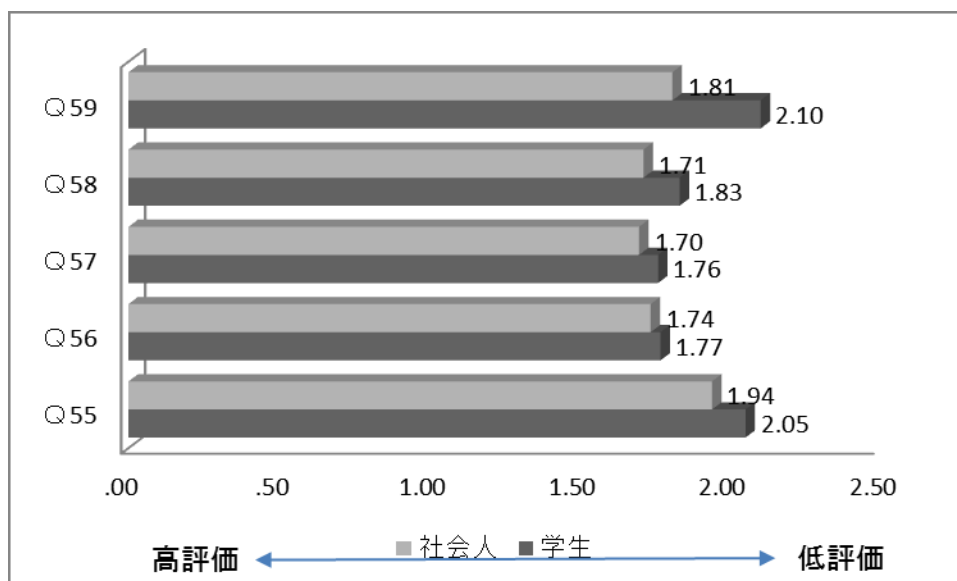
a. グループ化変数: 社会人の別

Q42～Q53はメイク手順毎の比較である。

全体の分析で述べるように数値的には評価は低い。これもまた、美容・非美容系の分析では非美容系が有意性をもって、厳しい評価であったが、ここでは社会人が学生に比べ高い評価をしている。

特に、美容・非美容の分析ではQ46:ブラシュ、Q47:アイブロウ、Q48:アイシャドウ、Q49:アイラインなどは有意差をもっていたが、ここでは有意差があるものは、Q44:ベース、Q51:リップとなり大きく評価があがり有意差が出ている。メイク等を業とする社会人にとっては経験値に由来する作業評価が窺われる。

Q55～Q59: 特別講義では詳しく説明していない項目について 1



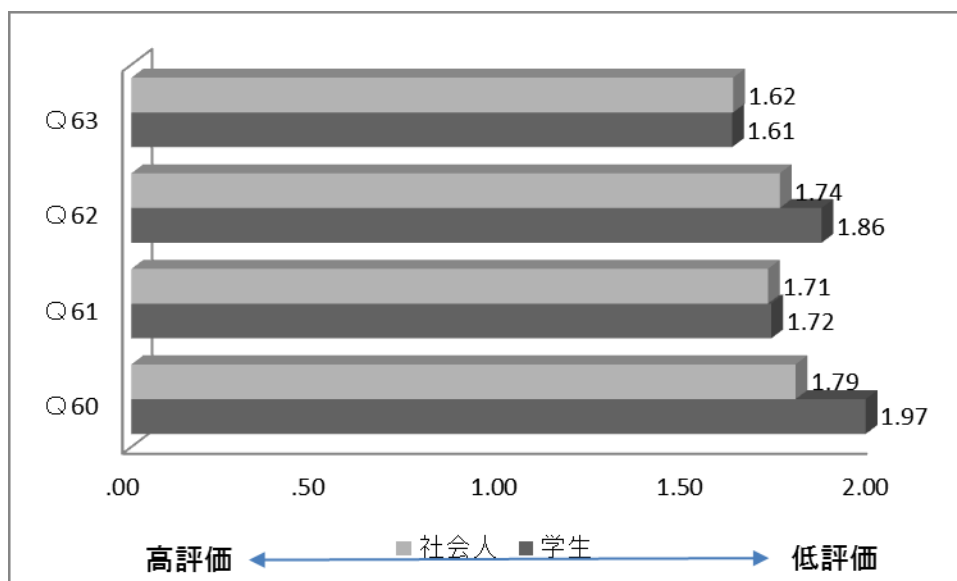
検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q55	266910.500	338541.500	-2.292	.022
Q56	285027.000	356658.000	-.257	.797
Q57	276983.000	347859.000	-1.046	.296
Q58	265845.000	337476.000	-2.445	.014
Q59	237926.500	310316.500	-5.595	.000

a. グループ化変数: 社会人の別

評価数値は高く2.10以下である。Q59:MSDS以外は、ほとんど有意差は認められない。  
 社会人の方が学生より評価が高い。社会人の方がエアブラシメイクに対して積極的である。  
 また、Q59:安全安心MSDSについては有意差をもって積極的に学習すべきとしている。  
 社会人における、安全安心への関心が非常に高いことがわかる。  
 この安全安心の問題は本プロジェクトでも必要として、アドバンスとして完成させるべきものとしてい  
 る。社会人と学生との安全安心に対する意識の差は特に特筆すべきものである。

Q60～Q63: 特別講義では詳しく説明していない項目について 2



検定統計量<sup>a</sup>

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q60	255026.500	326279.500	-3.535	.000
Q61	285320.500	356573.500	-.094	.925
Q62	264396.000	335649.000	-2.456	.014
Q63	283791.000	1439751.000	-.231	.817

a. グループ化変数: 社会人の別

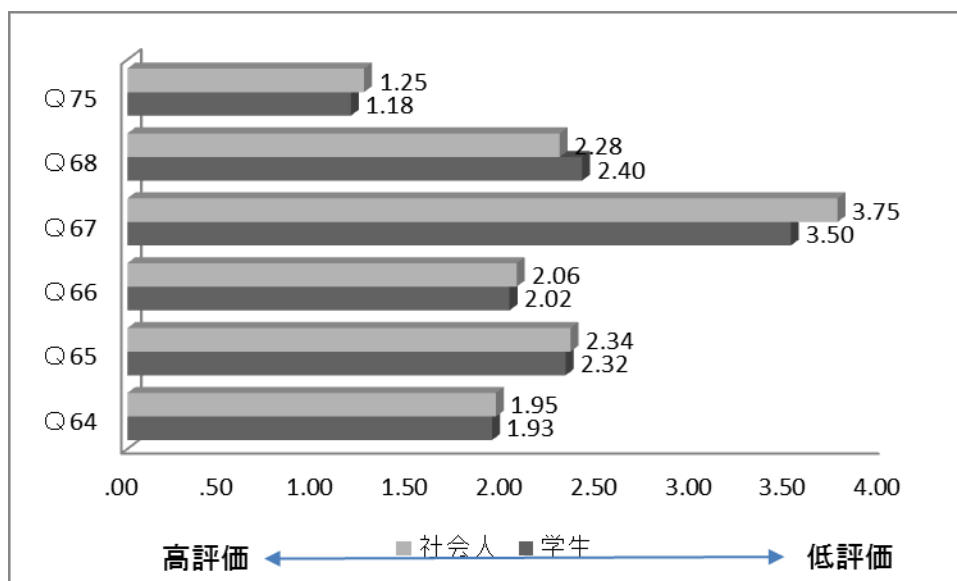
評価数値は高く1.97以下である。社会人の評価の方が高い。

社会人の方がエアープラシメイクに対して積極的である。

Q60: アドバンスレベルでは有意差が認められ、社会人の積極的な知識への興味が認められる。

Q62: 実需応用は少し有意差が認められる。

Q64～Q68: 今後授業について、Q75: 特別講義の評価



検定統計量\*

	Mann-Whitney の U	Wilcoxon の W	Z	漸近有意確率 (両側)
Q64	265374.000	1422855.000	-.797	.425
Q65	257726.500	1400042.500	-.510	.610
Q66	261348.500	1394613.500	-.885	.376
Q67	229158.000	1354908.000	-3.163	.002
Q68	224154.500	280770.500	-2.903	.004
Q75	230233.500	1247684.500	-2.843	.004

a. グループ化変数: 社会人の別

「Q67:どのくらいの内容まで授業をしてほしいか」は設問ではデータの順位が逆位になっている。

本分析ではデータの反転を行っていないため低評価と高評価が反対になります。

Q64～Q68の今後の授業については非美容系の方がより積極的である。

特に有意差のある、Q67(データは反転して解釈)ではよりアドバンスを目指すことが検証された。

Q75: 特別講義の評価は社会人、学生どちらも大変評価が高い。

総括: 社会人、学生のクラスターによる分析は全体としてほぼ同じ傾向にあるが、社会人の方がエアークラシメイクに積極的である反面、エアークラシメイクの個別評価に対しては評価基準が厳しいと言える。しかし、美容・非美容系分析とは異なり、社会人の場合は経験値に由来する評価が加わるために、実証的評価といえる。

両者ともエアークラシメイクに対する評価は高い。

とくに、再掲するが、

社会人と学生との安全安心に対する意識の差は特に特筆すべきものである。

非美容系より社会人の材料にたいする見識は高いこと、コスト等にはより敏感に反応すると思われ、

エアークラシメイクが社会人に認められたことは特に特筆すべきものである。



セクションV:メイクアップ手法における有意性測定尺度の信頼性・妥当性検討

1、エアープラシメイクアップとハンドアプライとの比較尺度の因子構成

エアープラシメイクアップとハンドアプライとを比較した有効性を測定したQ16～Q53の38項目について因子分析(最尤法, バリマックス回転)を行った。その結果、6 因子 33 項目が抽出され、累積寄与率は 48. 49%であった。また、KMO 値は 0.935 と高い値を示し、因子分析の適切性を支持していた。

因子分析結果		最尤法 バリマックス回転					
		回転後の因子行列*					
		因子					
		1	2	3	4	5	6
第1因子 メイクアップ手順 6項目	Q48 アイシャドウ	.872	.151	.083	.056	.036	.055
	Q45 カントァ	.783	.202	.122	.193	.040	.007
	Q46 ブラシュ(チーク)	.688	.167	.159	.261	.076	-.019
	Q47 アイブロウ	.679	.180	.045	.094	.082	.199
	Q49 アイライン	.667	.211	-.072	.006	.023	.387
	Q50 ハイライト	.574	.104	.158	.340	.059	.127
第2因子 スキル基盤保障 11項目	Q38 作業効率	.133	.708	.161	.193	.098	.052
	Q35 化粧手順/全体評価	.134	.629	.260	.185	.079	.097
	Q36 化粧時間	.126	.596	.080	.288	.036	.044
	Q39 メンテナンス	.244	.585	.018	-.003	.082	.133
	Q37 作業の見た目	.106	.554	.245	.141	.094	.033
	Q33 材料の安全性	.142	.518	.271	.077	.109	.028
	Q40 実用性/総合評価	.205	.508	.236	.118	.064	.141
	Q31 コストパフォーマンス	.126	.481	.221	.048	.143	.028
	Q34 応用性	.065	.414	.365	.093	.129	.078
	Q29 カラーリネーション	.176	.365	.291	-.040	.136	.118
	Q30 材料の使用量	.070	.349	.327	.120	.152	-.041
第3因子 仕上がり効果 8項目	Q20 キメの細かさ	-.032	.114	.624	.117	.166	-.049
	Q16 薄膜性	.012	.177	.623	.145	.096	.061
	Q17 発色	.086	.198	.580	.025	.068	.095
	Q19 クラゲーション効果	.140	.135	.556	.043	.125	-.055
	Q18 均一性	.090	.169	.554	.102	.043	.082
	Q26 使用感(べたつき)	.111	.234	.416	.044	.336	.108
	Q32 衛生面	.021	.346	.388	.154	.086	-.039
	Q25 カバー力	.106	.240	.361	.030	.281	.136
第4因子 肌ベース 3項目	Q44 ベース	.342	.230	.209	.725	.046	.049
	Q42 化粧下地	.213	.263	.174	.664	.076	.073
	Q43 コンシール	.318	.278	.142	.615	.078	.183
第5因子 耐久性 2項目	Q28 耐久性(化粧よれ)	.049	.231	.350	.077	.760	-.031
	Q27 耐水性・耐汗性	.074	.239	.337	.084	.725	-.019
第6因子 維持・補正 3項目	Q51 リップ	.499	.162	.025	.090	.018	.517
	Q52 修正	.435	.111	.090	.111	-.001	.511
	Q53 クレンジング	.325	.140	.112	.184	-.011	.389
<b>KMO および Bartlett の検定</b>							
Kaiser-Meyer-Olkin の標本妥当性の測度		.935					
Bartlett の球面性検定		近似カイ2乗		25240.903			
		自由度		528			
		有意確率		.000			

説明された分散の合計									
因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	9.914	30.043	30.043	9.252	28.036	28.036	4.199	12.724	12.724
2	3.561	10.791	40.833	3.123	9.464	37.500	3.995	12.106	24.829
3	1.715	5.197	46.030	1.121	3.398	40.898	3.279	9.935	34.765
4	1.502	4.550	50.580	1.109	3.361	44.259	1.943	5.888	40.653
5	1.162	3.522	54.102	.843	2.555	46.814	1.524	4.617	45.270
6	1.109	3.362	57.464	.554	1.678	48.492	1.063	3.222	48.492

- 2、メイクアップ手法における有意性測定尺度は6因子構造で構成されていたが、
- 第1因子は6項目から成り、「メイクアップ手順」を示す概念と考えられた。
  - 第2因子は11項目と最も多い項目数で構成され、作業効率や化粧時間などメイクアップにおけるスキルの基盤となる内容であることから「スキルの基盤保障」の概念と考えられた。
  - 第3因子は8項目からなり、エアープラシメイクの特徴を示すもので最終的にメイクアップを評価する要素である。「仕上がり効果」とした。
  - 第4因子は3項目からなり、基本作業を示し、メイクアップの最初の段階であり、「肌ベース」とした。
  - 第5因子は耐久性、耐水性なので「耐久性」とした。
  - 第6因子はメイクアップの修正等に係るもので「維持・補正」とした。
- 今後のメイクアップを手法については上記6つの視点から評価することが適切であると考えられる。

●まとめ

本エアークラシメイクアップ プロジェクトは以下の3点を最終目標としている。

1: エアークラシメイクアップの周知と有用性の実証

2: エアークラシメイクアップの方法論の確立

3: 人材育成プログラムの開発

アンケートはこれら目的達成のためのデータの収集を行い、その他サブプロジェクトの評価、検証をおこない、さらにはその他のサブプロジェクトに修正を加えるものである。

アンケート分析のまとめ、

1、全体にすべての項目を通じて、エアークラシメイクアップへの評価は非常に高い。

2、エアークラシ自体は知っているも、エアークラシメイクの方法や利用についての経験はほとんどない。したがって、多くの参加者は初めての体験である。そのなかで特別講義を通じてエアークラシメイクについての基本的特徴は理解され、その有用性、応用性については評価されたとと言える。

3、ハンドアプライとの比較においては、エアークラシの重要性が理解され、技術として、ハンドアプライと同様に必要であるとされた。これは、我々が提唱する、ハンドアプライとエアークラシメイクの2方法論の必要性を示すものである。

4、エアークラシメイクの周知は予算制約もあり、その数においては2800名程度である。参加校は64校であり、周知できたのはほんの一部にすぎないが、エアークラシメイクの導入を必要とする学校に対してのウエイトは高い。さらに、周知を通じての有用性の評価は高く、分析において実証された。

5、個別の作業工程には戸惑いが見られ、従来のハンドアプライと異なり、機械を使用する点において特に顕著である。ハンドアプライとの作業性の比較についてもハンドアプライに比べ難しいとされた。この点は、人材育成プログラムの開発において特に考慮すべき点であり、修正を加えた。テキストではエアークラシの基本操作の項目をより詳細にし、練習時間をとり、操作に慣れることに重点をおいた。

5、クラスター化(非美容・美容、社会人・学生)した分析結果においても、ほとんどすべての傾向は同じである。しかし、より専門的、より知識レベルの高い社会人は、エアークラシメイクの有用性や必要性については最も高い評価をするが、個別の作業や個別の評価は他のクラスターに比べ厳しく査定している。

6、特別講義で扱わなかった項目については社会人が最も意欲的であり、基礎知識以上に応用に対し興味を示す。これは、経験により、それら応用の必要性を肌で感じ、さらに産業としての確立を期待していると言える。

7、本プロジェクトでは学校での講義としてのエアークラシの修得をプログラム化したが、社会人向けへの対応も必要であるとの認識がある。人材育成プログラムは社会人向けの集中講座や自己学習でも使用できるように配慮してある。育成プログラムにおいて練習方法を明記し、サンプル用のアウトライン用紙をつけた。さらに、それらをワークブックとして、重要項目には回答するように編集した。エアークラシメイクの理論や練習方法はテキストブックの理解により修得でき、ワークブックにおいて実践練習を行うことができる。

8、自己学習において最も難しいのは、修得度の評価である。しかし、自分がどの程度できているのか、自分の作品が他のものに比べどの程度なのかを知ることができない。多くの作品鑑賞と多くの方からの自己の作品の評価が必要である。このようなことに鑑み、社会人向けに本プロジェクトでは外国人招聘公開講座も開いた。海外で活躍するトップアーティストによるデモンストレーションと質疑

応答をおこない、その後アンケート調査した。デモンストレーションにより、自己との比較ができ、多くは自己のいる段階が把握できたと思う。

特にQ42～Q53のメイク手順ごとの比較では、本来、美容、非美容、社会人の順で評価が厳しくなると思われたが、分析では社会人、美容、非美容の順となった。これは特に、特筆すべき結果である。社会人ではより知識と経験があるために、手順毎の比較においてもエアークラシが評価されたと言える。その反面、機械の使用については、持ち運び、メンテナンスなどを不可避としても、煩わしさ残り、経験を通じてより悪く評価していると思われる。

9、一方、講習価格については良好な結果が得られた。一般向けに講習会を開いても、商業ベースに乗ることとなる。これらは、エアークラシメイクの評価を通じて決定されるものであり、産業としてまた事業として維持できる程度であることは、社会人への今後の発展と普及が大いに期待できる。

10、さらに、もう一つ、Q59 安全安心とMSDSについて、社会人の優位差が際立つ。

本プロジェクトでは、使用における安全安心を薬事的見地を踏まえ、その安全安心の担保はメイクアップアーティストの責務とし、アカデミック知識の理解を提唱してきた。社会人における、この点に関する知識への高度な要求は、現実の社会での安全安心の重要性を示すものである。我々はアドバンス知識として、メイクアップアーティストによるMSDSを用いた安全安心の担保のために分析プログラムの開発を予定している。また、多くの安全安心に関する質問を踏まえ、薬事関連報告書ではQ&A形式での報告書を作成することとし、これを制作した。

11、エアークラシメイクアップアップの方法論を確立するにあたり、エアークラシメイクとハンドアプライの相互の関係について、アンケート結果をもとに再考した。これは、エアークラシメイクの有用性はハンドアプライの有用性に対しどの様な関係にあるのかを確立し、その概念に従って、エアークラシメイクの方法の確立の必要があると考えていたからである。エアークラシメイクが革新的技術してすべてのメイクアップを変えるのだろうか、単なる一時的なファッションであるのか、普遍的技術として確立するのであるか？いろいろな疑問が浮かぶ。

アンケート結果の分析を通じて、最終的には、エアークラシメイクとハンドアプライは相互補完的であるとの結論である。簡単には、エアークラシメイクにはエアークラシメイクの特徴と良さがあり、ハンドアプライもまた然りである。手ではなく機械を使うので、出来栄はよくて当たり前である。そしてその反面、機械を使う煩わしがある。しかし、メイクアップに対する高度な要求は、エアークラシなくしては要求に答えることができない。また、エアークラシはすべての部位をこなせるわけではなく、エアークラシできないこともたくさんある。これが事実であり、現実である。ハンドアプライとエアークラシが相互に補完関係にあって、その両方を使用することによって高度な要求に答えることができるのである。これはアンケートにおいて、エアークラシメイクが評価されても、その手順においてすべてに良いと評価されない理由である。しかし、エアークラシメイクとハンドアプライが2大方法論であり、必要であることが実証された。そして、実際には、エアークラシメイクの普及は遅れており、早急な人材育成が必要である。このに留意しテキストブックを構成した。

12、最後に、本エアークラシメイクの目標は達成されたと言える。また、その方法論は確立され、その評価も高いことが検証された。そして、運用講義においてすでに人材育成がなされ、今後も早急な人材育成が期待できる。

今回のアンケートは本プロジェクトの方向性を決定づけるものであり、有意義な調査であった。

●添付資料: アンケート質問(配布版)

次ページ以下に、参考のため、実際に使用したアンケート質問用紙を添付します。

文部科学省「専門人材の基盤的教育推進プログラム」2010  
プロジェクト名称:「エアブラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と  
人材育成プログラムの開発」におけるアンケート調査

本プロジェクトは文部科学省「専門人材の基盤的教育推進プログラム」に採択され、文部科学省の支援・推進を受け行われています。

アンケートの記入にかかる時間は 15 分程度です。

本アンケートは無記名で行います。本アンケートでは個人を特定することはできません。  
また、成績等には一切関係ありません。

本アンケートの結果はプロジェクトホームページで報告します。

<http://www.tva.ac.jp/airbrushPJT/>

「エアブラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発」  
プロジェクト委員会

代表校 専門学校東京ビジュアルアーツ

郵便番号:102-0081 東京都千代田区四番町 11 校長:橋本 邦比兒

電話 03-3221-0206

アンケート製作・監修委員:

白岩 直明:東京ビジュアルアーツ

浅野 覚仁:東京ビジュアルアーツ

菅野 文子:東京ビジュアルアーツ

奥山 一成:山野美容専門学校

井上 和彦:早稲田美容専門学校

板橋 晃子:群馬県美容専門学校

北野 幸子:ハリウッド美容専門学校

川添 雅英:ECCアーティスト専門学校

浅野 みどり:名古屋大学医学部保健学科 教授

浅野 輝幸:TEMPTU JAPAN

「エアーブラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発」のプロジェクトに関するアンケート

以下の各セクションの質問にお答えください。

ご記入日 西暦20\_\_年\_\_月\_\_日

セクション I :プロフィール:該当する番号に○を付けてください。

① あなたの性別および年齢

1、男性 2、女性 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

② お住まいの地域

1、北海道 2、東北 3、関東 4、東海、北陸 5、信越

6、関西 7、中国 8、四国 9、九州 10、沖縄

11 海外(地名: \_\_\_\_\_)

③ お住まいの地域特性

1、大都市圏 2、地方都市圏 3、田舎 4、僻地(田舎の田舎)

④ 現在の職業: 社会人学生、社会人経験者の方はA, B両方に記入して下さい。

A: 学生の方: 社会人学生の方も記入して下さい。

1) 学年 \_\_\_\_\_ 回生

2) 専攻科目: \_\_\_\_\_ 学科:

下記のどの分野になりますか。(重複回答可)

1、メイクアップ(一般向ビューティ)

2、メイクアップ(撮影ステージ等プロアーティスト)

3、特殊メイク 4、ボディアート 5、カバーメイク 6、死化粧

7、理美容(ヘアー) 8、トータルビューティ 9、ブライダル 10、ネイル

11、エステ 12、美容福祉・介護 13、コメディカル(看護師、技師等)

14、講師 15、その他(具体的にお書き下さい。: \_\_\_\_\_)

3) 学校種別

1、専門学校1年制 2、専門学校2年制 3、専門学校3年制

4、専門学校4年制 5、短大 6、大学 7、専門大学院 8、大学院、

9、その他学校( \_\_\_\_\_ )

B: 社会人の方: 社会人学生、社会人経験者の方も記入して下さい。

1) 現在の職業分野(重複可)

1、メイクアップ(一般向ビューティ)

2、メイクアップ(撮影ステージ等プロアーティスト)

3、特殊メイク 4、ボディアート 5、カバーメイク 6、死化粧

7、理美容(ヘアー) 8、トータルビューティ 9、ブライダル 10、ネイル

11、エステ 12、美容福祉・介護 13、コメディカル(看護師、技師等)

14、講師 15、その他(具体的にお書き下さい。: \_\_\_\_\_)

2) 職歴 \_\_\_\_\_ 年

3) 現在お持ちの資格: よければ書いて下さい。( \_\_\_\_\_ )

4) 最終学歴:

1、中学 2、高校 3、専門学校1年制 4、専門学校2年制

5、専門学校3年制、 6、専門学校4年制 7、短大 8、大学

9、専門大学院 10、大学院 11、その他学校( \_\_\_\_\_ )

⑤ なりたい職業(将来、志望する職種)一つだけ選んでください。

1、メイクアップ(一般向ビューティアー)

2、メイクアップ(撮影ステージ等プロアーティスト)

3、特殊メイク 4、ボディアート 5、カバーメイク 6、死化粧

7、理美容(ヘアー) 8、トータルビューティアー 9、ブライダル 10、ネイル

11、エステ 12、美容福祉・介護 13、コメディカル(看護師、技師等)

14、講師 15、その他(具体的にお書き下さい。: \_\_\_\_\_ )

⑥ その他興味のある職業(重複回答可)

1、メイクアップ(一般向ビューティアー)

2、メイクアップ(撮影ステージ等プロアーティスト)

3、特殊メイク 4、ボディアート 5、カバーメイク 6、死化粧

7、理美容(ヘアー) 8、トータルビューティアー 9、ブライダル 10、ネイル

11、エステ 12、美容福祉・介護 13、コメディカル(看護師、技師等)

14、講師 15、その他(具体的にお書き下さい。: \_\_\_\_\_ )

セクションⅡ：

「エアブラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発」プロジェクトに関するアンケート

<記入のしかた>

- ① 以下の各質問について、あなたの気持ちに最も近い口にチェックを入れてください
- ② もし、あなたの気持ちに完全にあてはまる口がない場合は、最も近いと思う口にチェックを入れてください
- ③ その他の項目がある場合はご自由にお書き下さい

【記入例】

例 . あなたは毎日メイクしますか。

- ほとんど毎日する
- する方が多い
- しない方が多い
- ほとんどしない

●エアブラシメイクの認知度について

Q 1 . エアブラシは多くの分野で使用されています。

エアブラシを知っていましたか。

- よく知っている
- 少し知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

Q 2 . どのような分野でのエアブラシを知っていますか。 複数選択可。

- 産業用（建築、塗装）
- ホビー用
- ネイルアート用
- メイク用
- その他（\_\_\_\_\_）

Q 3 . エアブラシを使用したことがありますか。メイク以外の分野でも可。

- よく使用する
- すこし使用する
- あまり使用しない
- 全く使用しない

Q 4 . 今回の講義・デモンストレーション以前に、

エアブラシメイクを知っていましたか。

- よく知っている
- すこし知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

Q 5 . 今回の講義・デモンストレーション以前に、

エアブラシメイクを見たことがありますか。

- よく見た
- すこし見たことがある
- あまり見たことがない
- 全く見たことがない

Q 6 . エアブラシメイクを体験したこと（したり、されたり）がありますか。

- よくある
- すこしある
- あまりない
- 全くない

Q 7 . メイクアップ関連でエアブラシを使用しているのを知っていますか。

- よく知っている
- すこし知っている
- あまり知らない
- 全く知らない



Q 8 . 以下のメイクアップ関連分野でエアブラシを使用していることを知っていますか。

知っているすべてについて✓を付けてください。

- |   |  |  |                              |
|---|--|--|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> メイクアップ（一般向ビューティ） | <input type="checkbox"/> メイクアップ（撮影ステージ等プロアーティスト） |  |                              |
| <input type="checkbox"/> 特殊メイク            | <input type="checkbox"/> ボディアート                  | <input type="checkbox"/> カバーメイク          | <input type="checkbox"/> 死化粧 |
| <input type="checkbox"/> 理美容（ヘア）          | <input type="checkbox"/> トータルビューティ               | <input type="checkbox"/> ブライダル           | <input type="checkbox"/> ネイル |
| <input type="checkbox"/> エステ              | <input type="checkbox"/> 美容福祉・介護                 | <input type="checkbox"/> コメディカル（看護師、技師等） |                              |
| <input type="checkbox"/> 講師               | <input type="checkbox"/> その他（具体的にお書き下さい：_____）   |  |                              |
| <input type="checkbox"/> 全く知らない           |  |  |                              |

Q 9 . エアブラシ機器（コンプレッサー・ハンドピース等）についての知識がありますか。

- よく知っている
- すこし知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

Q10 . エアブラシメイクのインクやファンデーションについての知識がありますか。

- よく知っている
- すこし知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

●特別講義・デモンストレーションを通して得られたエアブラシメイクの理解と評価について

Q11 . 特別講義・デモンストレーションを受けてエアブラシメイクの特徴を知ることができましたか。

- よく知ることができた
- すこし知ることができた
- 普通
- あまり知ることができなかった
- 全く知ることができなかった

Q12 . エアブラシメイクをできると思いますか。

- 簡単
- すこし簡単
- 普通
- すこし難しい
- 難しい

Q13 . エアブラシメイクの有用性（使用する価値）はありますか。

- ある
- すこしある
- どちらとも言えない
- あまりない
- ない

Q14 . エアブラシメイクの発展、応用の可能性はありますか。

- ある
- すこしある
- どちらとも言えない
- あまりない
- ない

Q15 . メイクアップの方法としてハンドタッチとエアブラシをどう思いますか。

- エアブラシだけ必要
- エアブラシがメイン
- 両方同じぐらい必要
- ハンドタッチがメイン
- ハンドタッチだけ必要

●エアブラシとハンドタッチの比較評価について

- |                           |                  |   |
|---------------------------|------------------|---|
| Q16. ファンデーションの厚み<br>(薄膜性) | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q17. 発色                   | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q18. 均一性                  | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q19. グラデーション効果            | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q20. キメの細かさ (HD対応)        | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q21. 仕上がり具合 (化粧のり)        | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q22. 全体的な見栄え              | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |
| Q23. マット感 (くすみ具合)         | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 艶肌<br><input type="checkbox"/> 少し艶肌<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> 少しマット<br><input type="checkbox"/> マット |
| Q24. 透明感 (潤い感)            | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い |

●エアブラシとハンドタッチの比較評価について：つづき2

- |                                |                  |   |
|--------------------------------|------------------|---|
| Q25. カバーカ（りよく）                 | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q26. 使用感（べたつき、突っ張り）            | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q27. 耐水性、耐汗性                   | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q28. 耐久性(化粧よれ)                 | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q29. カラーバリエーション<br>（色の種類、色の制作） | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q30. 材料の使用量                    | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 少ない<br><input type="checkbox"/> すこし少ない<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし多い<br><input type="checkbox"/> 多い |
| Q31. コストパフォーマンス                | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q32. 衛生面                       | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |
| Q33. 材料の安全性                    | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 良い<br><input type="checkbox"/> すこし良い<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし悪い<br><input type="checkbox"/> 悪い   |



●エアブラシとハンドタッチのメイク手順毎による比較評価について

- |                  |                  |   |
|------------------|------------------|---|
| Q42. 化粧下地        | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q43. コンシール       | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q44. ベース         | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q45. カントア (シャドウ) | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q46. ブラシュ (チーク)  | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q47. アイブロウ       | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q48. アイシャドウ      | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q49. アイライン       | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |
| Q50. ハイライト       | ハンドタッチよりエアブラシの方が | <input type="checkbox"/> 簡単<br><input type="checkbox"/> すこし簡単<br><input type="checkbox"/> 同じ<br><input type="checkbox"/> すこし難しい<br><input type="checkbox"/> 難しい |



●特別講義・デモンストレーションではくわしく説明していない項目について：つづき2

Q60. エアブラシメイクの方法と理論（修正方法を含めたアドバンスレベル）  
 くわしく知りたい  
 知りたい  
 どちらでもない  
 あまり知りたくない  
 知りたくない

Q61. エアブラシメイクのビューティメイクへの応用  
（ファンタジー、ブライダルなど）  
 くわしく知りたい  
 知りたい  
 どちらでもない  
 あまり知りたくない  
 知りたくない

Q62. カバーメイク、福祉理容、コメディカル、死化粧などの実需への応用  
 くわしく知りたい  
 知りたい  
 どちらでもない  
 あまり知りたくない  
 知りたくない

Q63. 特殊メイク、ボディアートなどのアートへの応用  
 くわしく知りたい  
 知りたい  
 どちらでもない  
 あまり知りたくない  
 知りたくない

●特別講義・デモンストレーションを受けてみて、今後の授業に関する希望について

Q64. 今後の授業でエアブラシメイクを行ってほしいですか。  
 すぐにしてほしい  
 してほしい  
 どちらでもよい  
 すぐには必要ない  
 全く必要ない

Q65. エアブラシメイクの授業はどの程度の重要性があると思いますか。  
 メイク関連科必須科目  
 メイク専門科必須科目  
 メイク関連科選択科目  
 メイク専門科選択科目  
 必要ない

Q66. メイクアーティスト育成でなく、トータルビューティやブライダル、  
コーディネーター、その他のメイク関連コースにおいても  
エアブラシメイクを理解する必要があると思いますか。  
 大変必要  
 必要  
 どちらでもない  
 あまり必要ない  
 必要ない

Q67. どのくらいの内容までエアブラシメイクの授業をしてほしいですか。  
 エアブラシの機械操作  
 エアブラシメイクの基礎技術（機械操作と吹き付けができる程度）  
 エアブラシメイク ベーシック（一連のビューティができる程度）  
 エアブラシメイク アドバンス1  
（ビューティ+アート仕様：ブライダル、ファンタジーなどの簡単な応用分野）  
 エアブラシメイク アドバンス2  
（カバーメイク、 헤어、FXメイク、福祉美容、死化粧、ボディアート、フリーハンドの応用分野）  
 必要ない

Q68. エアブラシメイクには機械（コンプレッサー、ハンドピース等）が必要です。  
個々人の生徒が所有すべきだと思いますか。  
 教材として個人が購入  
 必要に応じて任意で個人が購入  
 学校が設備する（授業のみ使用）

●削除

Q69 .

Q70 .

Q71 .

Q72 .

Q73 .

Q74 .

●特別講義・デモンストレーションを終えて

Q75 . 特別講義・デモンストレーションについて

 参考になった すこし参考になった どちらともいえない あまり参考にならない 全く参考にならない

Q76 . 学校以外でエアブラシメイクを修得する場合、どれくらいの費用が妥当だと思いますか。

(機械や材料は含みません。)

A : 8時間程度 : 基礎のみ。エアブラシメイクの簡単な練習程度 ( \_\_\_\_\_ 円)

B : 30時間程度 : 練習時間も含め一連のビューティーができる程度 ( \_\_\_\_\_ 円)

Q77 . 要望や質問等ありましたらお書き下さい。

---

---

---

お忙しい中、ご協力いただきまして本当にありがとうございました。